

入学試験要項 2025

帝京大学大学院

Teikyo University Graduate School

■ 医学研究科

■ 薬学研究科

■ 医療技術学研究科

板橋キャンパス

視能矯正学専攻・看護学専攻・診療放射線学専攻・臨床検査学専攻・救急救護学専攻

八王子キャンパス

スポーツ健康科学専攻

宇都宮キャンパス

柔道整復学専攻

■ 公衆衛生学研究科

■ 医療データサイエンスプログラム

目 次

| | |
|-----------------------------|-----------|
| 1. 医学研究科 | 3 |
| (1) 出願から入学までの流れ | 3 |
| (2) アドミッション・ポリシー | 4 |
| (3) 募集人員および出願資格 | 5 |
| (4) 入学試験 | 6 |
| (5) 出願書類 | 9 |
| (6) 指導教員一覧 | 10 |
| (7) 経済的支援 | 12 |
| | |
| 2. 薬学研究科 | 13 |
| (1) 出願から入学までの流れ | 13 |
| (2) アドミッション・ポリシー | 14 |
| (3) 募集人員および出願資格 | 15 |
| (4) 長期履修 | 17 |
| (5) 入学試験 | 18 |
| (6) 出願書類 | 20 |
| (7) 指導教員一覧 | 21 |
| | |
| 3. 医療技術学研究科 | 23 |
| (1) 専攻・課程・キャンパス | 23 |
| (2) 出願から入学までの流れ | 23 |
| (3) アドミッション・ポリシー | 24 |
| (4-1) 募集人員および出願資格・要件 | 25 |
| (4-2) 指導を希望する教員との事前相談 | 27 |
| (5) 長期履修 | 28 |
| (6) 入学試験 | 29 |
| (7) 出願書類 | 31 |
| (8) 指導教員一覧 | 33 |
| | |
| 4. 公衆衛生学研究科 | 47 |
| (1) 公衆衛生学研究科について（概要） | 47 |
| (2) 出願から入学までの流れ | 48 |
| (3) 募集人員および出願資格 | 49 |
| (4) 長期履修 | 52 |
| (5) 入学試験 | 53 |
| (6) 出願書類 | 55 |
| (7) 指導教員一覧 | 57 |

5. 医療データサイエンスプログラム 58

- (1) 医療データサイエンスプログラムについて（概要）58
- (2) 出願から入学までの流れ59
- (3) アドミッション・ポリシー59
- (4) 募集人員および出願資格60
- (5) 長期履修61
- (6) 入学試験62
- (7) 出願書類64
- (8) 授業科目65
- (9) 指導教員一覧67

6. 研究科共通 69

(医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科、医療データサイエンスプログラム)

- (1) 出願手続 69
- (2) 合格発表 74
- (3) 入学手続 75
- (4) 納入金 76
- (5) 出願場所および試験場案内 77

個人情報の取扱いについて

出願においてお知らせいただいた個人情報（氏名、住所等）は本学におきまして入学案内、入学試験に関する業務を行うために利用します。この業務の一部は、本学より当該業務の一部を委託した業者（以下、「受託業者」という）にて行います。業務委託に際し、個人情報の保護に関する契約を締結した受託業者に、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供する事があります。詳細については、本学ホームページにてご確認ください。

安全保障輸出管理について

帝京大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「帝京大学 安全保障輸出管理規程」を定め、物品の輸出、技術の提供、人材の交流に関して必要な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育を受けられない場合がありますので、入学願書の提出の前に指導希望教員と相談するなど、出願にあたっては注意してください。なお、入学時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する旨の誓約書に署名していただきます。

1. 医学研究科

1. 出願から入学までの流れ

1. アドミッション・ポリシーの確認

アドミッション・ポリシーを確認してください。



2. 募集人員、出願資格、納入金、入学試験の確認

出願資格によっては、出願手続き前に入学資格審査を受ける必要があります。



3. 志望する専攻科目の指導教員からの了解

志望する専攻主科目を検討し、出願前に必ず本学の指導教授・指導教員から了承を得てください。



4. 出願手続

インターネット出願サイトで登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出してください。

※出願締切日必着



5. 入学試験

受験票は各自で印刷し、当日会場へご持参ください。



6. 合否発表および入学手続

Web による合否照会システムを利用することができます。

納入金は、合格発表日から入学手続締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。



7. 入学

2. アドミッション・ポリシー

医学研究科は、建学の精神にもある「国際性、創造性、専門性」に則り、優れた研究・診療能力を備えた医療系人材を育成し、また、高い研究能力を持つ医学系研究者を育成することにより医学の発展に貢献することを目指しています。

医学部では大学人・社会人としての素養を学ぶとともに、専門分野の基礎医学・臨床医学の知識を広く学ぶことが重要です。その後の卒前卒後臨床研修において目の前の患者のために尽力するのに必要な知識・手技・態度を実地体験で修得することが必須です。その際に、医療の現場や医学において多くの課題があることに気づき、その課題を分析し解決することによってさらに患者のために尽力できることを理解しなければなりません。

学部や卒後研修等における上記のような学修や経験を通じて次のような意欲・資質・能力を備えた入学者を求めています。

1. 国際的視野に立って医学研究へ貢献する意欲がある。
2. 最先端医療技術の開発や修得および普及に積極的に関わることができる。
3. 研究に基づいて広く医療における課題を解決することに深い関心があり、積極的に貢献する意欲がある。
4. 臨床経験を積み重ねながら臨床現場における実際の・実践的課題を見出し、それを深く追求する方法を学ぶ意欲がある。
5. 専門的知識を深く広く修得し診療に役立て、患者の健康と福祉へ貢献することができる。

3. 募集人員および出願資格

医学研究科【博士課程】（修業年限4年）

1. 募集人員

| 研究科 | 専攻名 | 入学定員 |
|-------|------|------|
| 医学研究科 | 医学専攻 | 70名 |

(注) 出願者は、10ページ「6. 指導教員一覧」を参照し、専攻主科目、指導教授・指導教員を出願時に入力してください。

2. 入学区分

入学区分には「一般枠」と「社会人枠」の2種類があります。出願情報入力時に「志望先②／個人情報」の「入学予定身分」を正しく選択してください。

- ① 一般枠：本学医学部を除き、常勤職員の身分を有することはできません。
※非常勤、アルバイトは可とする。
- ② 社会人枠：本学医学部に勤務（医学部教員、後期研修医等）しており、入学後もその身分を有する者。
※ただし、構造機能医学分野、基礎病態学分野および社会保健医学分野へ出願する者に限り、本学初期研修医からの出願も認める。
※なお、本学医学部の職員として採用されない場合には、一般枠となります。

●公衆衛生学研究医養成コースについて

本学医学部・大学院医学研究科一貫プログラムによる公衆衛生学研究医養成コースに該当する者は事務部までお問い合わせください。

3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかに2025年3月末日までに該当する見込みのある者

- (1) 大学における修業年限6年の履修を要する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
 - ① 旧大学令による大学の医学又は歯学の学部において医学及び歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
 - ② 防衛省設置法による防衛医科大学校を卒業した者
 - ③ 修士課程又は学校教育法第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規程の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規程（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で大学院又は専攻科において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者
 - ④ 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く）を卒業し、又は

- 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (5) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの
- ※ (5) に該当し、出願しようとする者については、事前に個別入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められます。
- 希望する者は、本学ホームページを参照してください。
- <https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

【出願要件】

器官系統病態学分野、総合病態診療学分野、がん専門医養成コースに志願する者は医師免許を有する者

4. 入学試験

1. 日程

| 時期区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日 | 試験場 |
|-------------|-------------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------|
| 第1回 (博士) | 出願開始日時 2024年10月15日(火)9:00 | 2024年 11月9日(土) | 2024年 11月22日(金) | 2024年 11月29日(金) | 板橋 キャンパス |
| | 出願締切日時 2024年10月25日(金)16:30 | | | | |
| 第2回 (博士) | 出願開始日時 2025年2月10日(月)9:00 | 2025年 3月8日(土) | 2025年 3月13日(木) | 2025年 3月19日(火) | |
| | 出願締切日時 2025年2月21日(金)16:30 | | | | |

2. 試験場

- 帝京大学板橋キャンパス大学棟本館(77ページ「5. 出願場所および試験場案内」を参照してください。)
- ※大学棟本館1階(病院側)出入口をご利用ください。
- ※試験室は、当日大学棟本館1階入口に掲示しますので確認してください。
- ※試験場へは公共の交通機関をご利用ください。

3. 選考方法(時間割および試験の内容)

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、書類審査(志望理由書等)の総合判定とする。

| 時間 | 試験内容 |
|------------|--|
| 8:45~9:05 | 試験室入室時刻 ※9:05までに着席のこと。ただし、8:45までは入室できません。 |
| 9:15~9:30 | 受験上の注意 |
| 9:30~11:00 | 外国語筆記試験(英語) 辞書持ち込み可※ |
| 11:15~ | 口述試験 |

※外国語筆記試験に持ち込むことができる辞書は、英和辞書および医学用語に関する英和辞書です。ただし、電子辞書の持ち込みは認められません。

4. 受験上の注意

- ① 試験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は失格となります。
- ② 不正行為者には退室を命じ、失格とします。
- ③ 試験場および試験室において、他の受験生に迷惑となるような行為を禁止します。
- ④ 受験票は試験室の外に出る際には、必ず携帯してください。
- ⑤ 試験に必要なものは、かばん等に入れて椅子の下に置いてください。
- ⑥ 机上に置けるものは受験票・鉛筆（和歌・格言等が印刷されているものは不可）・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式を除く）・英和辞書および医学用語に関する英和辞書（電子辞書除く）・時計（計時機能だけのもの）・眼鏡です。これ以外の所持品を置くことは認めません。アラームや時報機能のついた時計は、試験室に入る前に必ず設定を解除してください。
- ⑦ 筆記用具・英和辞書・腕時計等の貸借は一切禁止します。忘れずに持参してください。
- ⑧ 定規・コンパス・計算機等の補助具や電子辞書・携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末・ICレコーダー・イヤホン等の電子機器類は使用できません。試験時間中にこれらを使用（机上に置く等）したり、身につけていることが発覚した場合、失格となります。
- ⑨ 携帯電話・院内モバイル等の電子機器類は必ずアラームを解除し、電源を切ってかばん等に入れてください。これらを時計として使用することはできません。なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の電子機器類の着信音やマナーモードの振動音が発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で保管する場合があります。
- ⑩ 口述試験中および口述試験控室等での待機時間においても携帯電話等の電子機器類は使用できません。携帯電話等の電子機器類は、電源を切ってかばん等に入れてください。これらの使用が発覚した場合は、失格となることもあります。
- ⑪ ハンカチ・ティッシュペーパー・座布団・ひざ掛け・目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。
- ⑫ 「耳せん」は、監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。
- ⑬ 試験時間内の答案提出、退出は認めません。試験中の発病等やむを得ない場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも試験室以外での受験はできません。また、一時退室した場合の試験時間の延長は認めません。
- ⑭ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど、自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、時計や携帯電話等の電子機器類の短時間の鳴動、照明の点滅、周囲の建物のチャイム音・周囲の工事音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- ⑮ 口述試験の開始時刻は変更となることがありますので、当日の掲示または監督者の指示に従ってください。
- ⑯ 試験終了後、忘れ物がないか確認してから退室してください。
- ⑰ 受験票は合否の確認の際に必要となりますので、必ず持ち帰り、大切に保管してください。
- ⑱ 試験室はすべて禁煙です。

5. 遅刻について

試験開始後30分以内の遅刻に限り、受験を認めます。但し、試験時間の延長は認めません。試験当日、天候不良や事故・地震等により公共の交通機関に乱れが生じている場合でも、試験場に向かってください。
(その日のうちに必ず入学試験が行われるものと理解してください)。

なお、主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の遅延が発生している、または、予想され、試験開始時刻に間に合わない場合は、77 ページ「5. 出願場所および試験場案内」に記載されている電話番号に連絡して指示を受けてください。主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の乱れにより、多数の受験生が試験開始時刻に間に合わないと本学が判断した場合のみ、試験開始時刻を遅らせることがあります。

6. 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、治癒していない場合は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調管理については、十分に注意してください。

5. 出願書類

1. 出願書類

| | |
|-------------------------|---|
| ① 入学願書・別紙 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 <u>主科目責任者、指導教授、指導教員（10ページ以降「6. 指導教員一覧」を参照）の記入が必須</u> 。出願前に必ず了承を得ること。同一の場合も各欄に記入が必要。 |
| ② 志望理由書※ | |
| ③ 研究計画書※ | |
| ④ 業績一覧表※ | 所定の様式 (Excel)。業績がない場合は、その旨記入すること。 ・学術論文・著書は、共著者は3名程度を記載のこと。 （その他の共著者については、～ら、～ et al と記すこと。） ・学会発表については、自身が主演者のもののみを記載のこと。 （その他の演者氏名は記載不要。） |
| ⑤ 成績証明書 | 出身大学・大学院のもの。 |
| ⑥ 卒業・修了（見込）証明書 | 出身大学・大学院のもの。 見込の者は卒業（修了）見込証明書を提出のこと。 |
| ⑦ 国家資格免許証の写し | 資格取得者のみ、コピー（A4サイズ）を提出のこと。 |
| ⑧ 研究に従事したことの証明（在職証明書） | 5ページ「3. 募集人員および出願資格」の「3. 出願資格（4）」④の該当者のみ提出。 研究期間、身分、大学・研究所等の名称、大学・研究所等の責任者の氏名が明記されており、大学・研究所等の責任者の公印もしくは自署（外国の場合）が付されていること。 |
| ⑨ 研究期間中に発表した論文1編 | 5ページ「3. 募集人員および出願資格」の「3. 出願資格（4）」④の該当者で研究期間中に発表した論文がある者。 1. 別刷1部を提出のこと。 2. 原則として、日本語または英語の論文とする。 3. 出願者が、当該研究期間中に発表した論文のうちで最も主なものとする論文とする。 |
| ⑩ 臨床研修修了（見込）証明書の写し | 研修機関で発行したもの。証明書の発行ができない場合に限り、修了証でも可。コピー（A4サイズ）を提出のこと。※登録証ではありません。 ただし、本学医学部附属の3病院において臨床研修を修了（見込）の者は提出不要。 |
| ⑪ <u>受験承諾書※（社会人枠のみ）</u> | 本学医学部の職員である場合は、各所属長に押印の依頼をすること。2024年4月以降、本学初期および後期研修医の場合は提出不要。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

【注意】

- ・①、②、③、④、⑪については、作成後、A4サイズの白紙に印刷してください。
- ・証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人であることを証明する書類（戸籍抄本）を提出のこと。
- ・外国語で作成されている書類には、必ず公的機関等発行の日本語の翻訳を添付すること。

6. 指導教員一覽

2024年7月1日現在

◎ 主科目責任者

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|--------------|----------------|--------------|----|
| 構造機能医学 | 細胞生物学・解剖学 | ◎ 教授 竹田 扇 | |
| | 脳神経科学 | ◎ 教授 林 俊宏 | |
| | | 准教授 大野 孝恵 | |
| | 生化学／臨床医科学 | ◎ 教授 安達 三美 | |
| 教授 飯塚 眞由 | | | |
| 教授 (兼) 西森 茂樹 | | | |
| 生命物質化学 | ◎ 教授 (兼) 月田早智子 | | |
| | 准教授 (兼) 大胡 惠樹 | | |
| | | 准教授 (兼) 星野 学 | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|---------------|--------------|------------|----|
| 基礎病態学 | 人体病理学・病理診断学 | ◎ 教授 宇於崎 宏 | |
| | | 教授 笹島 ゆう子 | |
| | | 病院教授 齋藤 光次 | |
| | | 准教授 菊地 良直 | |
| | ◎ 教授 山崎 一人 | ちば | |
| | 教授 藤野 節 | | |
| | ◎ 病院教授 高橋美紀子 | 溝口 | |
| | ◎ 教授 青山 晃治 | | |
| | ◎ 教授 吉野 友祐 | | |
| | ◎ 教授 横村 浩一 | | |
| 教授 (兼) 加納 暁 | | | |
| 准教授 (兼) 山田 剛 | | | |
| ◎ 教授 横村 浩一 | | | |
| ◎ 教授 下川 智樹 | | | |
| ◎ 教授 (兼) 河内正治 | | | |
| 准教授 (兼) 鈴木章一 | | | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|--------------|-----------|------------|----|
| 社会保健医学 | 公衆衛生医学 | ◎ 教授 大久保孝義 | |
| | | 教授 浅山 敬 | |
| | | 教授 菊谷 昌浩 | |
| | ◎ 教授 野上 誠 | | |
| | 准教授 西尾 忠 | | |
| ◎ 教授 佐川 俊世 | | | |
| ◎ 教授 深川 剛生 | | | |
| 教授 (兼) 宇野希世子 | | | |
| ◎ 教授 大久保由美子 | | | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|-------------|--------------|------------|----|
| 器官系統病態学 | 内分泌・代謝学・糖尿病学 | ◎ 教授 石川 敏夫 | |
| | | 教授 塚本 和久 | |
| | | 教授 冲永 寛子 | |
| | | 病院教授 盛田 幸司 | |
| | | 准教授 宇野 健司 | |
| | ◎ 教授 河野 肇 | | |
| | 教授 (兼) 菊地弘敏 | | |
| | ◎ 教授 井上 大輔 | ちば | |
| | ◎ 教授 原 眞純 | 溝口 | |
| | 腎臓病学 | ◎ 教授 柴田 茂 | |
| 教授 藤垣 嘉秀 | | | |
| ◎ 教授 伊藤 孝史 | | ちば | |
| 准教授 小林 政司 | | | |
| ◎ 准教授 河原崎宏雄 | | 溝口 | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|---------------|--------------|------------|----|
| 器官系統病態学 | 血液内科学 | ◎ 教授 田代 晴子 | |
| | 血液腫瘍学 | ◎ 教授 山口 正雄 | ちば |
| | | ◎ 教授 原 眞純 | 溝口 |
| | 消化管内科学 | ◎ 教授 山本 貴嗣 | |
| | | 准教授 小田島慎也 | |
| | | ◎ 教授 小尾俊太郎 | ちば |
| | 消化器肝臓内科学 | ◎ 教授 田中 篤 | |
| | | 教授 山本 貴嗣 | |
| | | 准教授 浅岡 良成 | |
| | | 准教授 小田島慎也 | |
| | ◎ 教授 土井 晋平 | 溝口 | |
| | ◎ 病院教授 菊池健太郎 | 溝口 | |
| | ◎ 教授 長瀬 洋之 | | |
| | 教授 坂尾 幸則 | | |
| | ◎ 教授 山口 正雄 | ちば | |
| | 病院教授 萩谷 政明 | | |
| | ◎ 教授 幸山 正 | 溝口 | |
| | ◎ 教授 北沢 貴利 | | |
| | 病院教授 松永 直久 | | |
| | 循環器内科学 | ◎ 教授 上妻 謙 | |
| | | 教授 横山 直之 | |
| | | 教授 渡邊 雄介 | |
| | 准教授 片岡 明久 | | |
| ◎ 教授 中村 文隆 | ちば | | |
| 准教授 天木 幹博 | | | |
| ◎ 教授 鈴木 伸明 | 溝口 | | |
| 神経学 | ◎ 教授 小林 俊輔 | | |
| | 教授 齊藤 史明 | | |
| | 病院教授 畑中 裕己 | | |
| | ◎ 教授 作石かおり | ちば | |
| 小児科学 | ◎ 教授 三牧 正和 | | |
| | 教授 小林 茂俊 | | |
| | 病院教授 南谷 幹史 | | |
| ◎ 教授 井田 孔明 | 溝口 | | |
| 内科学総合 | ◎ 教授 原 眞純 | | |
| | 教授 幸山 正 | | |
| | 病院教授 菊池健太郎 | 溝口 | |
| | 教授 鈴木 伸明 | | |
| 准教授 河原崎宏雄 | | | |
| ◎ 教授 三牧 正和 | | | |
| 教授 小林 茂俊 | | | |
| ◎ 教授 多田 弥生 | | | |
| 教授 鎌田 昌洋 | | | |
| ◎ 教授 佐藤 友隆 | ちば | | |
| 放射線診断学・放射線腫瘍学 | ◎ 教授 大場 洋 | | |
| | 教授 近藤 浩史 | | |
| | 病院教授 白石憲史郎 | | |
| | ◎ 教授 多湖 正夫 | 溝口 | |
| 病院教授 林 高樹 | | | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|---|--|---|----|
| 器官系統病態学 | 外科学総合 | ◎ 教授 深川 剛生 ◎ 教授 佐野 圭二 ◎ 教授 神野 浩光 ◎ 教授 坂尾 幸則 ◎ 教授 三澤 健之 ◎ 教授 落合 大樹 ◎ 准教授 野澤慶次郎 ◎ 准教授 伊藤 香 | |
| | 乳腺腫瘍学 | ◎ 教授 神野 浩光 | |
| | 肝胆膵・移植外科学 | ◎ 教授 佐野 圭二 ◎ 教授 三澤 健之 | |
| | 小児外科学 | ◎ 教授 深川 剛生 | |
| | 上部消化管外科学 | ◎ 教授 深川 剛生 | |
| | | ◎ 准教授 首藤 潔彦 | ちば |
| | 下部消化管外科学 | ◎ 教授 落合 大樹 | |
| | | ◎ 准教授 野澤慶次郎 | |
| | 内視鏡外科学 | ◎ 教授 幸田 圭史 | ちば |
| | | ◎ 教授 小林 宏寿 ◎ 教授 三浦 文彦 | 溝口 |
| | 呼吸器外科学 | ◎ 教授 坂尾 幸則 ◎ 准教授 齋藤 雄一 | |
| | 心臓血管外科学 | ◎ 教授 下川 智樹 ◎ 教授 今水流智浩 | |
| | 運動器再建・再生学 | ◎ 教授 河野 博隆 ◎ 教授 中川 匠 ◎ 教授 渡部 欣忍 ◎ 病院教授 北川 知明 ◎ 准教授 今西 淳悟 | |
| | | ◎ 教授 村田 泰章 | ちば |
| | | ◎ 教授 安井 哲郎 | 溝口 |
| ◎ 教授 長阪 一憲 ◎ 教授 藤本 晃久 ◎ 教授 五十嵐敏雄 ◎ 病院教授 木戸浩一郎 ◎ 病院教授 笹森 幸文 ◎ 准教授 足立 克之 | | | |
| 脳神経外科学 | ◎ 教授 辛 正廣 ◎ 教授 庄島 正明 ◎ 准教授 宇野 健志 | | |
| 耳鼻咽喉科学 | ◎ 教授 伊藤 健 ◎ 病院准教授 持木 将人 | | |
| | ◎ 教授 鈴木 雅明 | ちば | |
| 視覚病態学 | ◎ 教授 井上 裕治 ◎ 教授 (兼) 林 孝雄 ◎ 准教授 三村 達哉 | | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|-------------|--------|--|----|
| 器官系統病態学 | 泌尿器外科学 | ◎ 教授 中川 徹 ◎ 病院准教授 金子 智之 | ちば |
| | | ◎ 教授 納谷 幸男 ◎ 病院准教授 荒木 千裕 | |
| 形成・口腔顎顔面外科学 | | ◎ 教授 横山みなと ◎ 准教授 漆原 正泰 | 溝口 |
| | | ◎ 教授 小室 裕造 ◎ 病院教授 大河内真之 | |
| | | ◎ 准教授 大金 覚 ◎ 准教授 小林 尚史 ◎ 病院准教授 堂後 京子 | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|---------|---|--|----|
| 総合病態診療学 | 精神神経科学 | ◎ 教授 功刀 浩 ◎ 病院准教授 赤羽 晃寿 | |
| | リハビリテーション医学 | ◎ 教授 緒方 直史 ◎ 准教授 中原 康雄 | |
| | | ◎ 教授 原 元彦 | 溝口 |
| | 臨床検査医学 | ◎ 教授 古川 泰司 ◎ 教授 横山 直之 | |
| | 東洋医学 | ◎ 教授 下川 智樹 | |
| | 麻酔科学 | ◎ 教授 澤村 成史 ◎ 教授 原 芳樹 ◎ 教授 張 京浩 ◎ 教授 (兼) 中田善規 ◎ 教授 (兼) 澤 智博 ◎ 教授 高田 眞二 ◎ 病院教授 關山 裕詩 ◎ 病院教授 原島 敏也 ◎ 病院教授 安田 篤史 | |
| | | ◎ 教授 田垣内祐吾 | ちば |
| | | ◎ 教授 丸山 晃一 ◎ 准教授 平林 剛 | 溝口 |
| | | ◎ 教授 青江 知彦 | ちば |
| | | ◎ 教授 三宅 康史 ◎ 教授 金子 一郎 ◎ 教授 安心院康彦 ◎ 教授 鈴木 卓 ◎ 病院教授 佐川 俊世 | |
| | | ◎ 教授 志賀 英敏 | ちば |
| | 疼痛科学 | ◎ 教授 青江 知彦 | ちば |
| 救急災害医学 | ◎ 教授 三宅 康史 ◎ 教授 金子 一郎 ◎ 教授 安心院康彦 ◎ 教授 鈴木 卓 ◎ 病院教授 佐川 俊世 | | |
| 集中治療医学 | ◎ 教授 志賀 英敏 | ちば | |

| 分野 | 専攻主科目 | 主な指導教員 | 開講 |
|------------|-------|--|----|
| がん専門医養成コース | 臨床腫瘍学 | ◎ 教授 関 順彦 ◎ 教授 渡邊 清高 | |
| | 緩和医療学 | ◎ 教授 有賀 悦子 | |
| | 外科・手技 | ◎ 教授 佐野 圭二 ◎ 教授 三澤 健之 ◎ 教授 三浦 文彦 | |

※開講欄が空欄の場合は、「板橋」での開講となります。

7. 経済的支援

1. 帝京大学大学院医学研究科（臨床系）奨学金制度

大学院医学研究科博士課程 臨床系専攻科目に在学し、研究に従事しながら附属病院にて臨床・病院病理を通して4.5日/週の自己研鑽を図る者を対象とし、30万円/半年を支給する。

（年間最大60万円まで、支給は原則2年。）

※社会人枠は対象外

2. 帝京大学大学院医学研究科海外留学生奨学金制度

海外からの留学生に対し、指導教授の認める場合に限り、学費（授業料および入学金）を全額免除もしくは一部減免する。

※社会人枠は対象外

2. 薬学研究科

1. 出願から入学までの流れ

1. アドミッション・ポリシーの確認

アドミッション・ポリシーを確認してください。



2. 募集人員、出願資格、納入金、入学試験の確認

志望するコースの募集人員、出願資格、納入金、入学試験を確認してください。

なお、出願資格によっては、出願手続き前に個別入学資格審査を受ける必要があります。



3. 志望する専攻科目の指導教員からの了解

志望する専攻科目を検討し、出願前に必ず本学の指導教員から了解を得てください。



4. 出願手続

インターネット出願サイトで登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出してください。

※出願締切日必着



5. 入学試験

受験票は各自で印刷し、当日会場へご持参ください。



6. 合否発表および入学手続

Web による合否照会システムを利用することができます。

納入金は、合格発表日から入学手続締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。



7. 入学

2. アドミッション・ポリシー

薬学研究科は、学部教育で学んだ知識・経験をさらに広げ、①臨床現場で薬物治療のリーダーに求められる高度の研究・教育能力を持つ人材の養成、および、②大学教育、薬学行政、製薬企業など臨床現場以外においても、臨床薬学の発展に必須な知識・技能を有し、指導的な役割を担い得る有用な人材の養成を目指しています。

本大学院では、上記①と②に対応する人材養成のために、臨床薬学履修コースおよび薬学履修コースの2つのコースを設けています。入学にあたっては、前者では薬剤師の資格と自覚が必要です。後者では薬剤師の資格は必ずしも必須とせず、これまでの薬学にない領域において確かな基盤的能力を有する人材をも受け入れます。

どちらのコースも、学部教育等における学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 広く医療や健康に関心をもち、他を思いやる心など豊かな人間性を有する。
2. 科学分野において、真理探究への情熱を有する。
3. 高度化する臨床現場にあって、科学的な根拠と論理性をもって、新たな医療に挑戦する志を有する。
4. 高度な専門性や優れた研究能力をもって、大学や医療現場で後進の指導にあたる意欲を有する。

3. 募集人員および出願資格

●薬学研究科【博士課程】（修業年限4年）

1. 募集人員

| 専攻 | コース | 募集人員 |
|------|-----------|------|
| 薬学専攻 | 臨床薬学履修コース | 5名 |
| | 薬学履修コース | 3名 |

2. 出願資格（臨床薬学履修コース／薬学履修コース）

次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかに2025年3月末日までに該当する見込みの者。

- (1) 大学における修業年限6年の履修を要する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
 - ① 旧大学令による大学の医学又は歯学の学部において医学及び歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
 - ② 防衛省設置法による防衛医科大学校を卒業した者
 - ③ 修士課程又は学校教育法第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規程の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規程（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で大学院又は専攻科において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - ④ 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (5) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

※(5)に該当し、出願しようとする者については、事前に個別入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められます。希望する者は、本学ホームページを参照してください。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

※修士の学位を得た者は、本研究科において(1)と同等以上の学力があると認められた場合に限り、(4)③に該当します。

※(1)以外の大学を卒業した者は、卒業した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において(1)と同等以上の学力があると認められた場合に限り、(4)④に該当します。

【コースごとの出願要件】

| コース | 出願要件 |
|-----------|---|
| 臨床薬学履修コース | 薬剤師免許を有する者（第110回薬剤師国家試験による取得見込者を含む。国家試験不合格の場合は入学許可を取り消す）。 |
| 薬学履修コース | 15ページ「2. 出願資格」の通り。 |

【出願時の注意事項】

- ・ 入試区分には「一般入試」と「社会人入試」の2種類があります。「社会人入試」区分で出願する場合、以下の要件に該当することを確認してください。

| コース | 出願要件（社会人入試） |
|-----------|---|
| 臨床薬学履修コース | 薬剤師として現在病院、薬局等に勤務している者で、入学後も所属長等の許可を得て引き続き在職できる者。 |
| 薬学履修コース | 現在企業、官公庁、研究所等に勤務している者で、入学後も所属長等の許可を得て引き続き在職できる者。 |

※「一般入試」と「社会人入試」では、出願書類および入学金が異なります。詳細につきましては、20ページ「6. 出願書類」及び76ページ「4. 納入金」をご覧ください。

- ・ 出願書類提出以前に、志望する指導教員の了解を得てください。

4. 長期履修

長期履修とは、社会人等に配慮し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することです。

1. 修業年限（カッコ内は在学年限）

薬学専攻博士課程：5年（8年）

2. 学費

標準修業年限の総額を長期履修許可年限で除した額を1年間の学費とします。（別途、年数分の保険料が必要です。）

詳細につきましては、76ページ「4. 納入金」をご覧ください。

3. 申請時期および履修期間の変更

長期履修を希望する方は、出願時に申請をしてください。入学後の申請はできません。

なお、長期履修期間の変更は1回限り、1年間の短縮が可能です。

4. 申請方法

- ① 「長期履修申請書」に必要事項を記入してください。「申請理由」欄には長期履修を希望する具体的な理由を明記ください。
- ② 志望する専攻科目の指導教員と十分お打合せの上、指導予定教員の意見ならびに承認印を得てください。
- ③ 「長期履修申請書」は出願時に提出してください。

5. 入学試験

1. 入試日程・出願場所

| 時期区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日* |
|-------------|--------------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 第1回 (博士) | 出願開始日時 2024年10月15日(火) 9:00 | 2024年 11月9日(土) | 2024年 11月22日(金) | 2024年 11月29日(金) |
| | 出願締切日時 2024年10月25日(金) 16:30 | | | |
| 第2回 (博士) | 出願開始日時 2025年2月10日(月) 9:00 | 2025年 3月8日(土) | 2025年 3月13日(木) | 2025年 3月19日(水) |
| | 出願締切日時 2025年2月21日(金) 16:30 | | | |

※入学手続締切日までに振込手続(本学への着金)を完了しない場合は入学の意思がないものとみなし、入学許可を取り消します。

2. 試験場

帝京大学板橋キャンパス大学棟本館(77ページ「5. 出願場所および試験場案内」を参照してください。)

※大学棟本館1階(病院側)出入口をご利用ください。

※試験場へは公共の交通機関をご利用ください。

3. 選抜方法(時間割および試験の内容)

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、書類審査(志望理由書等)の総合判定とする。

| 時間 | 試験内容 |
|--------------|---|
| 8:45 ~ 9:05 | 試験室入室時刻 ※9:05までに着席のこと。ただし、8:45までは入室できません。 |
| 9:15 ~ 9:30 | 受験上の注意 |
| 9:30 ~ 10:30 | 筆記試験(英語) ※辞書使用可 |
| 10:45 ~ | 口述試験 |

※本学が当日用意する辞書のみ使用可。その他個人で持ち込んだ辞書については使用不可。

4. 受験上の注意

- ① 試験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は失格となります。
- ② 不正行為者には退室を命じ、失格とします。
- ③ 試験場および試験室において、他の受験生に迷惑となるような行為を禁止します。
- ④ 受験票は試験室の外に出る際には、必ず携帯してください。
- ⑤ 試験に必要なものは、かばん等に入れて椅子の下に置いてください。
- ⑥ 机上に置けるものは受験票・鉛筆(和歌・格言等が印刷されているものは不可)・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り(電動式を除く)・時計(計時機能だけのもの)・眼鏡です。これ以外の所持品を置くことは認めません。アラームや時報機能のついた時計は、試験室に入る前に必ず設定を解除してください。
- ⑦ 筆記用具・腕時計等の貸借は一切禁止します。忘れずに持参してください。
- ⑧ 定規・コンパス・計算機等の補助具や電子辞書・携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末・

ICレコーダー・イヤホン等の電子機器類は使用できません。試験時間中にこれらを使用（机上に置く等）したり、身につけていることが発覚した場合、失格となります。

- ⑨ **携帯電話等の電子機器類は必ずアラームを解除し、電源を切ってかばん等に入れてください。** これらを時計として使用することはできません。なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の電子機器類の着信音やマナーモードの振動音が発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で保管する場合があります。
- ⑩ 口述試験中および口述試験控室等での待機時間においても携帯電話等の電子機器類は使用できません。携帯電話等の電子機器類は、電源を切ってかばん等に入れてください。これらの使用が発覚した場合は、失格となることもあります。
- ⑪ ハンカチ・ティッシュペーパー・座布団・ひざ掛け・目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。
- ⑫ 「耳せん」は、監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。
- ⑬ 試験時間内の答案提出、退出は認めません。試験中の発病等やむを得ない場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも試験室以外での受験はできません。また、一時退室した場合の試験時間の延長は認めません。
- ⑭ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど、自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、時計や携帯電話等の電子機器類の短時間の鳴動、照明の点滅、周囲の建物のチャイム音・周囲の工事音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- ⑮ 口述試験の開始時刻は変更となることがありますので、当日の掲示または監督者の指示に従ってください。
- ⑯ 試験終了後、忘れ物がないか確認してから退室してください。
- ⑰ **受験票は合否の確認の際に必要となりますので、必ず持ち帰り、大切に保管してください。**
- ⑱ 試験室はすべて禁煙です。

5. 遅刻について

試験開始後30分以内の遅刻に限り、受験を認めます。但し、試験時間の延長は認めません。試験当日、天候不良や事故・地震等により公共の交通機関に乱れが生じている場合でも、試験場に向かってください。（その日のうちに必ず入学試験が行われるものと理解してください）。なお、主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の遅延が発生している、または、予想され、試験開始時刻に間に合わない場合は、77ページ「5. 出願場所および試験場案内」に記載されている電話番号に連絡して指示を受けてください。

主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の乱れにより、多数の受験生が試験開始時刻に間に合わないと本学が判断した場合のみ、試験開始時刻を遅らせることがあります。

6. 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、治癒していない場合は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。

なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調管理については、十分に注意してください。

6. 出願書類

1. 出願書類

| | |
|-------------------------------------|--|
| ① 入 学 願 書 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ② 成 績 証 明 書 | 出身大学（学部・大学院研究科）長が作成したもの。 （修士課程出身者は、学士課程および修士課程の両方の成績証明書を提出すること） |
| ③ 卒 業（修了）証 明 書 | 最終学校の卒業または修了証明書。 （卒業（修了）予定者は卒業（修了）見込証明書を提出すること） |
| ④ 志 望 理 由 書※ | 所定の様式（Excel）。400字程度で作成すること。 |
| ⑤ 卒 業 論 文 要 約 または 修 士 論 文 要 約 | ・任意の様式。A4版、word横書き、12ポイント明朝体で作成すること。 ・卒業論文要約は1000字程度、修士論文要約は2000字程度で作成すること。 ・上段に「氏名」、「論文要約タイトル」を記入すること。 ・修士修了者は修士論文要約のみ提出すること。 ・卒業（修了）予定者は提出時までの内容を記入すること。 |
| ⑥ 研 究 計 画 書※ | 所定の様式（Word）。今後の研究計画を記入すること。 |
| ⑦ 業 績 一 覧 表※ | 所定の様式（Excel）。学会発表、学術論文、著書等がある場合、これまでの業績を記入すること。業績がない場合は、その旨記入すること。 |
| ⑧ 薬 剤 師 免 許（写し） | ※臨床薬学履修コース志望者のみ 第110回薬剤師国家試験受験予定者は合格後提出すること。 |
| ⑨ 受 験 承 諾 書※ | ※社会人入試受験者のみ 所定の用紙で、所属長等が作成したもの。 |
| ⑩ 長 期 履 修 申 請 書※ | ※社会人入試受験者で、長期履修希望者のみ 所定の用紙。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

【注意】

- ・①、④、⑤、⑥、⑦、⑨、⑩ については、作成後、A4サイズの白紙に印刷してください。
- ・証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人であることを証明する書類（戸籍抄本）を提出のこと。
- ・外国語で作成されている書類には、必ず公的機関等発行の日本語の翻訳を添付すること。

7. 指導教員一覧

2024年7月1日現在

薬学
研究科

| 部門 | 研究室名 | 職名 | 氏名 | 研究内容 |
|-------------|----------------------------|-----|-------|--|
| 病院・地域医療研究部門 | 臨床薬剤学 | 教授 | 渡邊真知子 | 個別化医療と医薬品の適正使用に関する研究 |
| | | 教授 | 板垣 文雄 | 医薬品の化学構造と安全使用に関する研究 |
| | | 助教 | 前島 多絵 | 医薬品の適正使用を目的とした医薬品情報の創出に関する研究 |
| | 病院薬学 | 教授 | 安野 伸浩 | 高度医療推進のための多職種協働による先端的臨床研究 |
| | | 准教授 | 河村 剛至 | 炎症制御に関する基礎研究とそれを応用した臨床研究 |
| | | 准教授 | 渡部多真紀 | 臨床における薬剤師による臨床研究 |
| | | 准教授 | 南目 梨江 | Eビデンス創出を目指した臨床研究 |
| | | 准教授 | 長瀬 幸恵 | 医薬品の適正使用に関する研究 |
| | | 助教 | 奥平 倫世 | 院内製剤の製剤学的な評価および改良点の探索 |
| | 薬物動態学 | 教授 | 久保 義行 | 血液組織関門を介した薬物・栄養物移行機構の解明 |
| | | 助教 | 黒澤 俊樹 | ヒト血液脳関門 3D 培養モデルの構築 |
| | 薬学実習推進研究センター (臨床実習ユニット) | 教授 | 渡辺 茂和 | 臨床における医薬品の適正使用に関する研究 |
| | | 教授 | 浅井真理子 | 薬剤師の対人業務に関する行動科学研究 |
| | | 准教授 | 久保田篤司 | 病院における医薬品管理業務に関する研究 |
| | | 講師 | 村上 勲 | 情意領域の教育に関する研究 |
| | | 講師 | 松木 祥彦 | 感染症領域における薬物療法に関する臨床研究 |
| | | 助教 | 中村 康宏 | 甲状腺ホルモン生成・代謝機構における硫酸化に関する基礎的研究と臨床への応用 |
| | 薬学実習推進研究センター (基礎実習ユニット) | 教授 | 馬渡 健一 | 生体成分及び医薬品の高感度・高選択的な新測定法の開発と応用 |
| | | 准教授 | 上園 崇 | パーキンソン病の薬物治療における問題点とその克服方法に関する研究 |
| | | 助教 | 川崎 茜 | シアル酸関連物質の微量分析法の開発及びその応用 |
| | 薬学実習推進研究センター (学習支援ユニット) | 准教授 | 飯島 亮介 | 抗生物質による生体成分傷害作用の防止法開発 |
| | | 講師 | 原田 史子 | PAF- アセチルヒドロラーゼが医薬品代謝に及ぼす影響についての検討 |
| | | 講師 | 岩澤 晴代 | 薬剤師に求められる問題解決能力や実践力を養うための教育方略に関する研究 6年制薬学部におけるアドバンスト教育の方略に関する研究 |
| | | 講師 | 長田 洋一 | 重金属応答の生理機能と分子メカニズムの解明 |
| | | 助教 | 木内 茂樹 | 洞房結節細胞による心筋細胞再生機序を利用した新たな心臓再生医療法の開発に関する研究 |
| | 社会薬学 | 教授 | 安原 真人 | 病態時における薬物動態と薬効・毒性に関する研究 Protocol Based Pharmacotherapy Management (PBPM) に基づく薬剤師と多職種の連携手法の確立とアウトカムの評価研究 |
| | | 講師 | 安藤 崇仁 | 薬剤師の地理的分布に関する研究 |
| 薬物治療研究部門 | 医薬品作用学 | 教授 | 坂本 謙司 | 新たな神経保護戦略を指向した網膜変性疾患に伴う神経細胞死の機序解明に関する研究 |
| | | 准教授 | 森 麻美 | 生理的網膜循環調節機構と病態時におけるその破綻機序の解明 |
| | | 講師 | 恒岡 弥生 | 網膜変性疾患の機序解明および治療戦略に関する研究 |
| | 薬効解析学 | 教授 | 大澤 匡弘 | 慢性疼痛や苦痛を生み出す神経メカニズムの解明とそれら疾患の治療法開発 |
| | | 助教 | 佐部 和人 | 精神疾患、発達障害に関する神経メカニズムの解明とそれら疾患の治療法開発 |
| | 薬物治療学 | 准教授 | 宮田 佳樹 | 眼疾患モデル動物における病態解析と天然由来機能素材ポリフェノール類の探索研究 |
| | | 講師 | 日下部吉男 | 個別化医療の実現を目指した構造的な研究 |
| | | 助教 | 谷津 智史 | 脂溶性リガンドによる眼疾患の発症予防および治療を目指した基礎研究 |
| | 病態生理学 | 教授 | 厚味 厳一 | 生活習慣病における分子生理学的視点からの解析による薬物治療の有効性の検討 薬剤師が地域で妊娠や出産を含めた女性の健康をサポートする体制の構築と実現化に向けた取り組み |
| | | 講師 | 斎藤 将樹 | 生活習慣病の病態生理の理解と薬物治療標的分子の発見 |
| | | 助教 | 石橋 賢一 | 生活習慣が関係する肥満や糖尿病に対する病態生理学的視点からの薬物治療法の開発 |
| | 人体機能形態学 | 教授 | 細山田 真 | 慢性腎臓病 (CKD)・末期腎不全 (ESRD) 患者のためのアンメットニーズ治療薬物の開発 |
| | | 講師 | 道志 勝 | 低体温療法の分子機序の解明に基づいた新規脳保護薬の開発 |
| | | 講師 | 寺田 一樹 | ドラッグリ・ポジショニングを基軸とした生体内の新規薬効探索 |
| | 病態分子生物学 | 教授 | 本間 光一 | 薬物による中枢機能の発達と機能維持に関する研究 |
| | | 准教授 | 青木 直哉 | 精神活動に及ぼす薬物作用と機能維持に関する研究 |
| | | 講師 | 森 千紘 | 中枢機能の発達と維持に関わる神経機構の解明 |

| 部門 | 研究室名 | 職名 | 氏名 | 研究内容 | |
|----------|------------|-------|--------------------|---|-------------------------------------|
| 薬物治療研究部門 | 生物化学 | 教授 | 山下 純 | リゾリン脂質メチエーターの高感度検出法の開発と様々な病態のマーカーとしての応用 | |
| | | 講師 | 佐々木洋子 | リゾリン脂質アシルトランスフェラーゼと発癌および癌細胞生存の関連 | |
| | | 助教 | 松本 直樹 | 脂質代謝酵素の異常と病態の関連 | |
| | 薬物送達学 | 教授 | 鈴木 亮 | 超音波を利用したDDSとセラノスティクスシステムの開発 | |
| | | 講師 | 小俣 大樹 | 外部エネルギーを利用したDDSの構築 | |
| | | 助教 | 宗像 理紗 | 自然免疫を賦活化するDDSの構築とがん免疫療法への応用 | |
| | 製剤学 | 教授 | 黄倉 崇 | 薬剤学・薬力学を基盤とした臨床-基礎統合研究 | |
| | | 講師 | 田中紫菜子 | 患者ベネフィットを目的とした臨床製剤学及び薬物動態学研究 | |
| | | 助教 | 中谷絵理子 | 食品成分の体内動態に関する研究 薬学生の研究能力向上のための教育方略に関する研究 | |
| | 生命薬情報学 | 教授 | 中村 亮介 | 医薬品や食品等による重篤なアレルギーの発症メカニズムに関する研究 | |
| 講師 | | 谷川 和也 | 細菌感染における細胞内脂質代謝の役割 | | |
| 医薬品研究部門 | 創薬化学 | 教授 | 忍足 鉄太 | 生理活性有機化合物の合成化学的研究 | |
| | | 准教授 | 田畑 英嗣 | 生理活性有機化合物の立体化学に関する研究 | |
| | | 助教 | 高橋 由佳 | 医薬品候補化合物やその代謝物の合成研究と構造解析 | |
| | 薬化学 | 教授 | 藤島 利江 | 核内受容体をターゲットとするリガンド設計・合成・構造解析, ならびに疾患治療への応用 | |
| | | 講師 | 高野 真史 | セコステロイド骨格の医薬品チューニング | |
| | 代謝化学 | 准教授 | 杉山 亨 | 遺伝子制御を目指した人工DNAの開発、および、医薬品代謝物とその代謝酵素の解析 | |
| | | 助教 | 森谷 俊介 | 遺伝子制御を目指した人工DNAの基礎的検討 | |
| | 医薬品分析学 | 講師 | 安田 誠 | 配合変化による医薬品分解過程の解析 | |
| | 臨床分析学 | 准教授 | 山岡 法子 | 代謝性疾患に影響を及ぼす天然薬物に関する研究 | |
| | | 准教授 | 三枝 大輔 | 生体内メタボローム・リピドーム解析基盤技術開発と疾患リスク因子同定への応用に関する研究 | |
| | | 講師 | 福内 友子 | 代謝異常症の病態に関わるタンパク質の同定とその生体内における意義の探究 | |
| | 物理化学 | 教授 | 岸本 泰司 | 脳高次機能の分子基盤の解明および脳神経疾患の治療と予防法の開発 | |
| | | 講師 | 今野 裕史 | 非平面性ポルフィリンの水溶性化とその酸塩基平衡、金属挿入メカニズムに関する研究 | |
| | 物理薬理学 | 教授 | 横山 和明 | 疾患の代謝物解析による診断薬の探索 | |
| | | 准教授 | 濱 弘太郎 | 疾患の代謝物解析による発症機構の解析 | |
| | | 講師 | 藤原 優子 | 遺伝性疾患における脂質の解析 | |
| | 生体分子化学 | 教授 | 楯 直子 | 疾患原因タンパク質の構造・物性・機能解析に基づく疾患発症の分子メカニズムの解明 | |
| | | 講師 | 伊藤 弦太 | 神経変性疾患の発症における翻訳後修飾の役割に関する研究 | |
| | | 講師 | 村田 拓哉 | 神経変性疾患の原因タンパク質の機能解析と発症機構の解明 | |
| | 基礎生物学 | 教授 | 山口 真二 | 遺伝子医薬を応用した中枢機能の発達と機能維持に関する臨床的研究 | |
| | | 准教授 | 根岸 文子 | 糖鎖の生物機能の解明と医薬応用に関する研究 | |
| | | 助教 | 藤田 俊之 | 再生医療をめざした再生機構の解明 | |
| | 安全性・毒性研究部門 | 衛生化学 | 教授 | 荒田洋一郎 | 糖鎖とレクチンの分子間相互作用とその生体内における役割に関する研究 |
| | | | 准教授 | 岡 沙織 | 乱用薬物の作用メカニズムの解明 |
| | | | 助教 | 田村真由美 | 糖認識タンパク質ガレクチンの生体内機能の解明 |
| | | 毒性学 | 教授 | 鈴木 俊英 | 薬毒物による毒性発現機構の解明とその臨床応用 |
| | | | 准教授 | 北 加代子 | 細胞内タンパク質品質管理機構に対する薬毒物中毒起因物質の影響と臨床応用 |
| | | | 講師 | 本間 太郎 | 臨床への応用に向けた共役脂肪酸の細胞毒性評価 |
| | | 環境衛生学 | 教授 | 山本 秀樹 | サブサハラアフリカにおいて今後必要とされる高齢化政策の研究 |
| | | | 助教 | 下山 多映 | エピジェネティクスに關与する環境化学物質スクリーニング系の開発 |
| 生体防御学 | | 教授 | 大藏 直樹 | 生活習慣病やがんが原因で発生する血栓性疾患の病態と薬物治療に関する統合的研究 | |
| | | 講師 | 鎌田 理代 | がんの進展とがん関連血栓症を制御する好中球因子に関する研究とその臨床応用 | |

3. 医療技術学研究科

1. 専攻・課程・キャンパス

| 専攻 | 博士前期課程 | 修士課程 | 博士後期課程 | キャンパス |
|----------------------------------|--------|------|--------|-------|
| 視能矯正学専攻 | ○ | — | ○ | 板橋 |
| 看護学専攻 | ○ | — | ○ | 板橋 |
| 診療放射線学専攻 診療放射線コース 医学物理士コース | ○ | — | ○ | 板橋 |
| 臨床検査学専攻 | ○ | — | ○ | 板橋 |
| 救急救護学専攻 | — | ○ | — | 板橋 |
| スポーツ健康科学専攻 | — | ○ | — | 八王子 |
| 柔道整復学専攻 | — | ○ | — | 宇都宮 |

2025年4月より以下の専攻にコースを新たに設置予定。(準備中)

看護学専攻 高度実践看護師課程 専門看護師(CNS)コース

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

2. 出願から入学までの流れ

1. アドミッション・ポリシーの確認

アドミッション・ポリシーを確認してください。

2. 募集人員、出願資格・要件、納入金、入学試験の確認

志望する専攻・課程・コースの募集人員、出願資格・要件、納入金、入学試験を確認してください。
なお、出願資格によっては、出願手続き前に入学資格審査を受ける必要があります。

3. 指導を希望する教員との事前相談

志望する分野を検討し、指導を希望する教員を選び、出願前に必ず事前相談を受けてください。

4. 出願手続

インターネット出願サイトで登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出してください。
※出願締切日必着

5. 入学試験

受験票は各自で印刷し、当日会場へご持参ください。

6. 合否発表および入学手続

Webによる合否照会システムを利用することができます。

納入金は、合格発表日から入学手続締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。

7. 入学

3. アドミッション・ポリシー

医療技術学研究科は、現代の高度なチーム医療の担い手として、視能矯正学、看護学、診療放射線学、臨床検査学、救急救護学、スポーツ健康科学、柔道整復学の各医療分野における優れた専門知識・技能・態度を有し、かつ教育・研究を自立して推進できる人材の育成を目指しています。

学部等における各医療分野の総合教育や専門的な学修を通じて、次のような資質を備えた入学者を求めています。

1. いたわりの心を有し倫理の重要性を認識している。
2. コミュニケーション能力に優れている。
3. 現代のチーム医療を担える基本的な知識・技能・態度を有している。
4. 医療分野における教育と問題解決への強い意欲を有している。

4-1. 募集人員および出願資格・要件

【博士前期課程・修士課程】（修業年限2年）

1. 募集人員

| 課 程 | 専 攻 | 募集人員 | 課 程 | 専 攻 | 募集人員 |
|------|-----------------------------|------|-----|----------|------|
| 博士前期 | 視能矯正学 | 10名 | 修 士 | 救急救護学 | 5名 |
| | 看護学 | 10名 | | スポーツ健康科学 | 15名 |
| | 診療放射線学 診療放射線コース、医学物理士コース | 10名 | | 柔道整復学 | 6名 |
| | 臨床検査学 | 10名 | | | |

2. 出願資格・要件

【出願資格】

次の各号のいずれかに該当する者、または次の各号のいずれかについて2025年3月31日までに該当する見込みの者 ※1

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることとその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者 ※2

※(7)に該当し、出願しようとする者については、事前に個別入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められます。希望する者は、本学ホームページを参照してください。<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

【出願要件】（スポーツ健康科学専攻は除く）

※1(1)～(7)の出願資格に加え、出願する専攻に該当する下表の免許（以下、「免許」という）を有する者、または2025年4月入学時に取得見込みである者。ただし、診療放射線学専攻医学物理士コースおよび臨床検査学専攻においては、免許を有さない者であっても、指導を希望する教員との事前相談で適性が認められた場合は出願できる。

| 専 攻 | 免 許 | 専 攻 | 免 許 |
|--------|------------------|-------|--------|
| 視能矯正学 | 視能訓練士 | 臨床検査学 | 臨床検査技師 |
| 看護学 | 看護師・保健師・助産師のいずれか | 救急救護学 | 救急救命士 |
| 診療放射線学 | 診療放射線技師 | 柔道整復学 | 柔道整復師 |

※2 短期大学または専門学校等を卒業し、免許を有する者で、出願資格(7)にて出願しようとする者は、3年以上の臨床経験または実務経験を有することが望ましい(2025年3月までに3年に達する見込みの者を含む)。

【注意事項】

- 1) 出願に際しては、出願資格に関わらず指導を希望する教員との事前相談が必要です(27ページ「4-2. 指導を希望する教員との事前相談」参照)。
- 2) 卒業、修了、学位授与が見込みでの出願者については、2025年4月入学時までに出席資格を得られなかった場合は、入学許可を取消し、入学金を除く納入済みの金額を返還いたします。
- 3) 視能矯正学・看護学・診療放射線学(診療放射線コース)・救急救護学・柔道整復学専攻の免許取得見込みの出願者については、2025年4月入学時までに免許を得られなかった場合は、2)に準じます。

【社会人の方へ】

入学後も引き続き勤務を続ける方等に対し、教育上特別措置の必要があると認められた場合には、夜間その他特定の時間または時期において、授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことがあります。また、標準修業年限を超えての計画的な履修(長期履修)を許可することがあります(28ページ「5. 長期履修」参照)。「4-2. 指導を希望する教員との事前相談」の際に十分にお打ち合わせください。

【博士後期課程】（修業年限3年）

1. 募集人員

| 専攻 | 募集人員 | 専攻 | 募集人員 |
|-------|------|-----------------------------|------|
| 視能矯正学 | 4名 | 診療放射線学 診療放射線コース、医学物理士コース | 2名 |
| 看護学 | 4名 | 臨床検査学 | 2名 |

2. 出願資格・要件

【出願資格】

次の各号のいずれかに該当する者、または次の各号のいずれかについて2025年3月31日までに該当する見込みの者 ※1

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者 ※2

※(5)に該当し、出願しようとする者については、事前に個別入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められます。希望する者は、本学ホームページを参照してください。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

【出願要件】

※1(1)～(5)の出願資格に加え、出願する専攻に該当する下表の免許（以下、「免許」という）を有する者、または2025年4月入学時に取得見込みである者。ただし、診療放射線学専攻医学物理士コースおよび臨床検査学専攻においては、免許を有さない者であっても、指導を希望する教員との事前相談で適性が認められた場合は出願できる。

| 専攻 | 免許 | 専攻 | 免許 |
|-------|------------------|--------|---------|
| 視能矯正学 | 視能訓練士 | 診療放射線学 | 診療放射線技師 |
| 看護学 | 看護師・保健師・助産師のいずれか | 臨床検査学 | 臨床検査技師 |

※2 大学等を卒業し、免許を有する者で、出願資格(5)にて出願しようとする者は、5年以上の臨床経験または実務経験を有することが望ましい（2025年3月までに5年に達する見込みの者を含む）。

【注意事項】

- 1) 出願に際しては、出願資格に関わらず指導を希望する教員との事前相談が必要です（27ページ「4-2. 指導を希望する教員との事前相談」参照）。
- 2) 学位授与が見込みでの出願者については、2025年4月入学時までに出願資格を得られなかった場合は、入学許可を取消し、入学金を除く納入済みの金額を返還いたします。
- 3) 視能矯正学・看護学専攻・診療放射線学（診療放射線コース）の免許取得見込みでの出願者については、2025年4月入学時までに出願資格を得られなかった場合は、2)に準じます。

【社会人の方へ】

入学後も引き続き勤務を続ける方等に対し、教育上特別措置の必要があると認められた場合には、夜間その他特定の時間または時期において、授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことがあります。また、標準修業年限を超えての計画的な履修（長期履修）を許可することがあります（28ページ「5. 長期履修」参照）。「4-2. 指導を希望する教員との事前相談」の際に十分にお打ち合わせください。

4-2. 指導を希望する教員との事前相談

出願を希望する方は、学外出身・学内出身（在学中も含む）を問わず、出願に先立ち必ず希望分野の指導教員と入学後の研究・教育について相談が必要です。33～46ページ「8. 指導教員一覧」を参照し、指導を希望する教員が決まりましたら、各専攻の出願先（77、78ページ「5. 出願場所および試験場案内」参照）までメールにてお申し込みください。

1. 事前相談該当者

医療技術学研究科に出願を希望する方は、学外出身・学内出身（在学中も含む）を問わず、全員事前相談を受けてください。

2. 指導を希望する教員

33～46ページ「8. 指導教員一覧」を参照してください。

3. 期間

余裕を持って、出願開始の1か月前までに事前相談を受けてください。

4. 申込方法

各専攻の出願先（77、78ページ「5. 出願場所および試験場案内」参照）に、以下の必要事項を明記の上、メールにて申し込んでください。

メールタイトル：「医療技術学研究科 事前相談希望」

- ①氏名（カナ） ②志望専攻科・課程 ③志望する分野 ④指導を希望する教員名
- ⑤連絡先（電話番号、メールアドレス）

5. 提出書類

特に必要ありません。ただし、専攻より提出を求められる場合もありますので、その場合は別途必要書類をご連絡いたします。

5. 長期履修

長期履修とは、社会人等に配慮し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することです。

1. 修業年限（カッコ内は在学年限）

博士前期課程・修士課程：3年（4年）

博士後期課程：4年（6年）

2. 学費

標準修業年限の総額を長期履修許可年限で除した額を1年間の学費とします。別途、年数分の保険料が必要です。

3. 申請時期および履修期間の変更

長期履修を希望する方は、出願時に申請をしてください。入学後の申請はできません。

なお、長期履修期間の変更は1回限り、1年間の短縮が可能です。

4. 申請方法

「長期履修申請書」に必要事項を記入してください。「申請理由」欄には長期履修を希望する具体的な理由を明記してください。また、「指導を希望する教員との事前相談」の際に、十分お打ち合わせの上、指導予定教員の意見ならびに承認印を得てください。「長期履修申請書」は出願時に提出してください。

6. 入学試験

1. 日程

| 時期区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日 |
|--------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------|--------------------|
| I期(修士) 第1回(博士) | 出願開始日時 2024年10月15日(火) 9:00 | 2024年 11月9日(土) | 2024年 11月22日(金) | 2024年 11月29日(金) |
| | 出願締切日時 2024年10月25日(金) 16:30 | | | |
| II期(修士) 第2回(博士) | 出願開始日時 2025年2月10日(月) 9:00 | 2025年 3月8日(土) ^{*1} | 2025年 3月13日(木) | 2025年 3月19日(水) |
| | 出願締切日時 2025年2月21日(金) 16:30 | | | |

※1 柔道整復師の国家試験日により、柔道整復学専攻の入学試験日が変更になる可能性があります。

2. 試験場

| 専攻 | 試験場 | 注意事項 |
|--|--|---|
| 視能矯正学 看護学 診療放射線学 臨床検査学 救急救護学 | 帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 | 指定されたキャンパスの試験室にて試験を行います。 試験室は、当日試験場に掲示しますので、確認の上、9:05までに入室してください。ただし、8:45までは入室できません。 |
| スポーツ健康科学 | 帝京大学八王子キャンパス 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359 | |
| 柔道整復学 | 帝京大学宇都宮キャンパス 〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1 | |

3. 選抜方法(時間割および試験の内容)

入学者の選抜は、筆記試験(専門分野および外国語(英語))、口述試験、研究計画書等の総合判定とする。

| 時間 | 試験内容 |
|--------------|--|
| 8:45 ~ 9:05 | 試験室入室時刻 ※9:05までに着席のこと。ただし、8:45までは入室できません。 |
| 9:15 ~ 9:30 | 受験上の注意 |
| 9:30 ~ 11:00 | 筆記試験[専門分野および外国語(英語)] ※辞書持ち込み可 |
| 11:15 ~ | 口述試験 |

※筆記試験に持ち込むことができる辞書は、英和辞書および医学用語に関する英和辞書とする。ただし、電子式の辞書は、持ち込み不可。

※スポーツ健康科学専攻の筆記試験については、医学的な知識を含む。

4. 受験上の注意

- ① 試験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は失格となります。
- ② 不正行為者には退室を命じ、失格とします。
- ③ 試験場および試験室において、他の受験生に迷惑となるような行為を禁止します。
- ④ 受験票は試験室の外に出る際には、必ず携帯してください。
- ⑤ 試験に必要なものは、かばん等に入れて椅子の下に置いてください。
- ⑥ 机の上に置けるものは受験票・鉛筆(和歌・格言等が印刷されているものは不可)・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り(電動式を除く)・英和辞書および医学用語に関する英和辞書(電子辞書除く)・時計(計時機能だけのもの)・眼鏡です。これ以外の所持品を置くことは認めません。アラームや時

- 報機能のついた時計は、試験室に入る前に必ず設定を解除してください。
- ⑦ 筆記用具・英和辞書・腕時計等の貸借は一切禁止します。忘れずに持参してください。
 - ⑧ 定規・コンパス・計算機等の補助具や電子辞書・携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末・ICレコーダー・イヤホン等の電子機器類は使用できません。試験時間中にこれらを使用（机上に置く等）したり、身につけていることが発覚した場合、失格となります。
 - ⑨ 携帯電話等の電子機器類は必ずアラームを解除し、電源を切っかばん等に入れてください。これらを時計として使用することはできません。なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の電子機器類の着信音やマナーモードの振動音が発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で保管する場合があります。
 - ⑩ 口述試験中および口述試験控室等での待機時間においても携帯電話等の電子機器類は使用できません。携帯電話等の電子機器類は、電源を切っかばん等に入れてください。これらの使用が発覚した場合は、失格となることもあります。
 - ⑪ ハンカチ・ティッシュペーパー・座布団・ひざ掛け・目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。
 - ⑫ 「耳せん」は、監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。
 - ⑬ 試験時間内の答案提出、退出は認めません。試験中の発病等やむを得ない場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも試験室以外での受験はできません。また、一時退室した場合の試験時間の延長は認めません。
 - ⑭ 試験時間中に日常生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど、自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、時計や携帯電話等の電子機器類の短時間の鳴動、照明の点滅、周囲の建物のチャイム音・周囲の工事音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
 - ⑮ 口述試験の開始時刻は変更となることがありますので、当日の掲示または監督者の指示に従ってください。
 - ⑯ 試験終了後、忘れ物がないか確認してから退室してください。
 - ⑰ 受験票は合否の確認の際に必要となりますので、必ず持ち帰り、大切に保管してください。
 - ⑱ 試験室はすべて禁煙です。

5. 遅刻の取扱い

試験開始後 30 分以内の遅刻に限り、受験を認めます。ただし、試験時間の延長は認めません。

試験当日、天候不良や事故・地震等により公共の交通機関に乱れが生じている場合でも、試験場に向かってください（その日のうちに必ず入学試験が行われるものと理解してください）。

なお、主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の遅延が発生している、または、予想され、試験開始時刻に間に合わない場合は、77、78 ページ「5. 出願場所および試験場案内」に記載されている電話番号に連絡して指示を受けてください。

主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の乱れにより、多数の受験生が試験開始時刻に間に合わないと本学が判断した場合のみ、試験開始時刻を遅らせることがあります。

6. 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、治癒していない場合は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。

なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日までの体調管理については、十分に注意してください。

7. 出願書類

1. 出願書類【博士前期課程・修士課程】

| | |
|-----------------------------|---|
| ①入学願書 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ②成績証明書 | 最終学歴校の学校長等が作成したもの。 (2024年4月1日以降に発行されたもの) ※最終学歴校以外に、出願する専攻に関連する学校を卒業している場合は、その成績証明書も提出すること。 |
| ③卒業(見込)証明書 | 最終学歴校の学校長等が作成したもの。 (2024年4月1日以降に発行されたもの) ※最終学歴校以外に、出願する専攻に関連する学校を卒業している場合は、その卒業証明書も提出すること。 |
| ④学位取得(見込)証明書 | 出願資格(2)に該当する場合。 ※授与される見込の者については、授与後速やかに提出すること。 |
| ⑤国家資格免許証の写し | 出願希望専攻に該当する国家資格免許証の写し(コピー)。 (取得見込者は、取得後写しを郵送) ※看護学専攻においては、看護師、保健師、助産師の免許のうち有する免許すべての写し(コピー)を提出すること。 ※診療放射線学専攻医学物理士コースおよび臨床検査学専攻においては、免許を有する場合のみ提出すること。 |
| ⑥資格・免許の写し (スポーツ健康科学専攻のみ) | 教員免許状、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者等の写し(コピー)。 ※教員免許状をすでに取得済みの者はすべての教員免許状の写し、または教員免許状授与証明書を必ず提出してください。 |
| ⑦志望理由書 | 所定の様式(Excel)。 |
| ⑧研究計画書 | 所定の様式(Word)。希望教育・研究領域等を記入すること。 |
| ⑨業績一覧表 | 所定の様式(Excel)。学会発表、学術論文、著書等がある場合、これまでの業績を記入し、業績を持たない場合は「なし」と記入すること。 |
| ⑩受験承諾書 | 所定の様式(Excel)(在職者であり、入学後も在職する予定である場合のみ)。 |
| ⑪長期履修申請書 | 所定の様式(Excel)(長期履修希望者のみ)。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ(<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>)より各自ダウンロードし、作成してください。

[注意]

- ①、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪については、A4サイズの白紙に印刷してください。
- 入学資格審査を受けた方は、書類(②、③、⑤、⑥、⑨)の再提出は不要です(内容に変更がない場合に限り)。
- 2025年度入試を再受験する場合は、(②、③、④、⑤、⑥、⑨、⑩、⑪)の再提出は不要です(内容に変更がない場合に限り)。
- 専攻名および課程については25ページの表を参照し、正確に記入してください。ただし、診療放射線学専攻のコース名は記入不要です。
- 証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人であることを証明する書類(戸籍個人事項証明書)を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、必ず公的機関等発行の日本語の翻訳を添付してください。
- 留学生は日本語能力を証明する書類を提出してください(詳細はお問合せください)。
- 記入内容を訂正する場合は、修正テープ等は使用せず訂正箇所には二重線を引いて訂正印を押してください。

【博士後期課程】

| | |
|----------------------------------|---|
| ①入学願書 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ②成績証明書 | 出身大学（学部・研究科）長等が作成したもの。 （2024年4月1日以降に発行されたもの） ※出願する専攻に関連する学校を卒業・修了している場合は、その成績証明書もすべて提出すること。 |
| ③修了（見込）証明書 または学位取得（見込） 証明書 | 出身大学（研究科）長等が作成したもので学位の記載があるもの。 （2024年4月1日以降に発行されたもの） ※授与される見込の者については、授与後速やかに提出すること。 |
| ④卒業証明書 | 出願する専攻に関連する学校を卒業している場合のみ。 出身大学（学部）長等が作成したもの。 （2024年4月1日以降に発行されたもの） |
| ⑤国家資格免許証の写し | 出願希望専攻に該当する国家資格免許証の写し（コピー）。 （取得見込者は、取得後写しを郵送） ※看護学専攻においては、看護師、保健師、助産師の免許のうち有する免許すべての写し（コピー）を提出すること。 ※診療放射線学専攻医学物理士コースおよび臨床検査学専攻においては、免許を有する場合のみ提出すること。 |
| ⑥志望理由書 | 所定の様式（Excel）。 |
| ⑦修士論文 | (1) 出身大学院に提出した修士論文1部（コピー可）を提出すること。 (2) 出身大学院で修士論文の提出を求められなかった者、および修士の学位を有しない者は「⑨業績一覧表」を提出すること。 |
| ⑧研究計画書 | 所定の様式（Word）。希望教育・研究領域等を記入すること。 |
| ⑨業績一覧表 | 所定の様式（Excel）。学会発表、学術論文、著書等がある場合、これまでの業績を記入し、業績を持たない場合は「なし」と記入すること。 |
| ⑩受験承諾書 | 所定の様式（Excel）（在職者であり、入学後も在職する予定である場合のみ）。 |
| ⑪長期履修申請書 | 所定の様式（Excel）（長期履修希望者のみ）。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

[注意]

- ①、⑥、⑧、⑨、⑩、⑪については、**A4サイズの白紙に印刷してください。**
- 入学資格審査を受けた方は、書類（②、④、⑤、⑨）の再提出は不要です（内容に変更がない場合に限り）。
- 2025年度入試を再受験する場合は、(②、③、④、⑤、⑦、⑨、⑩、⑪)の再提出は不要です（内容に変更がない場合に限り）。
- 専攻名および課程については26ページの表を参照し、正確に記入してください。ただし、診療放射線学専攻のコース名は記入不要です。
- 証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人であることを証明する書類（戸籍個人事項証明書）を提出してください。
- 外国語で作成されている書類には、必ず公的機関等発行の日本語の翻訳を添付してください。
- 留学生は日本語能力を証明する書類を提出してください（詳細はお問合せください）。
- 記入内容を訂正する場合は、修正テープ等は使用せず訂正箇所には二重線を引き訂正印を押してください。

8. 指導教員一覽

2024年7月現在

視能矯正学専攻 博士前期課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | | |
|------|--------------------------|-------------|---|---|---|----|---|---|--|
| 共通科目 | 研究倫理 | 教 | 授 | 石 | 川 | ひろ | の | 他 | |
| 専門科目 | 両眼視機能診断学講義 両眼視機能診断学演習 | 教 | 授 | 臼 | 井 | 千 | 恵 | | |
| | 両眼視機能治療学講義 | 教 | 授 | 松 | 岡 | 久 | 美 | 子 | |
| | 両眼視機能治療学演習 | 教 | 授 | 松 | 岡 | 久 | 美 | 子 | |
| | 眼筋機能病理学講義 眼筋機能病理学演習 | 教 | 授 | 林 | 田 | 孝 | 雅 | 雄 | |
| | 眼筋機能回復学講義 眼筋機能回復学演習 | 教 | 授 | 林 | | 孝 | 雄 | | |
| | 視覚機能検査学講義 視覚機能検査学演習 | 教 | 授 | 池 | 田 | 結 | 佳 | | |
| | 視覚機能訓練学講義 視覚機能訓練学演習 | 教 | 授 | 池 | 田 | 結 | 佳 | | |
| | 視覚機能病態学Ⅰ講義 視覚機能病態学Ⅰ演習 | 教 | 授 | 松 | 岡 | 久 | 美 | 子 | |
| | 視覚機能病態学Ⅱ講義 視覚機能病態学Ⅱ演習 | 教 | 授 | 三 | 橋 | 俊 | 文 | | |
| | 視能矯正学特別研究 | 教 | 授 | 林 | 岡 | 孝 | 美 | 雄 | |

視能矯正学専攻 博士後期課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | | |
|------|-----------|-------------|---|---|---|---|---|---|--|
| 専門分野 | 両眼視機能学特論 | 教 | 授 | 臼 | 井 | 千 | 恵 | | |
| | 眼筋機能学特論 | 教 | 授 | 林 | 田 | 孝 | 雄 | | |
| | 視覚機能学特論 | 教 | 授 | 林 | 部 | 孝 | 雄 | | |
| | 視覚機能病態学特論 | 教 | 授 | 三 | 橋 | 俊 | 文 | | |
| | 視能矯正学特殊研究 | 教 | 授 | 林 | 岡 | 孝 | 美 | 雄 | |

看護学専攻 博士前期課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 |
|-------|--------------------|--|
| 共通科目 | 研究倫理 | 教授 石川ひろの (公衆衛生学研究科) 他 |
| | 看護教育論 | 教授 砂見 緩子 |
| | 看護管理論 | 教授 砂見 緩子 |
| | 看護理論 | 教授 寺岡 征太郎 |
| | 看護研究 | 教授 南川 雅子 |
| | | 教授 林 さとみ |
| | コンサルテーション論 | 准教授 石見 和世 |
| | 看護倫理 | 教授 稲垣 順子 (帝京平成大学) |
| | 看護政策論 | 教授 山崎 恭子 |
| | 保健統計 | 教授 宮田 敏 (公衆衛生学研究科) |
| | フィジカルアセスメント | 教授 林 さとみ |
| | 病態生理学 | 教授 他 |
| | 臨床薬理学 | 教授 青山 晃治 (医学部・薬理学講座) |
| 専門科目 | 基礎看護学 | 教授 新井 直子 |
| | | 教授 砂見 緩子 |
| | | 教授 新砂 見 緩子 |
| | 成人看護学 | 教授 南川 雅子 |
| | | 教授 南川 雅子 |
| | | 教授 南川 雅子 准教授 古屋 洋子 准教授 古瀧 結香 准教授 星 野 晴彦 |
| | リプロダクティブヘルス・ライツ看護学 | 教授 梶原 祥子 |
| | 小児看護学 | 教授 三木 祐子 |
| | | 教授 三石 見和子 准教授 石 世 |
| | 精神看護学 | 教授 寺岡 征太郎 |
| | | 教授 寺岡 征太郎 講師 伊藤 文子 講師 大河内 敦子 |
| | 地域・公衆衛生看護学 | 教授 山崎 恭子 |
| | | 教授 山崎 恭子 講師 山口 優子 |
| | 高齢者看護学 | 教授 鈴木 久美子 |
| | | 教授 鈴木 久美子 准教授 黒白 恵子 |
| がん看護学 | 教授 南川 雅子 | |

看護学専攻 博士後期課程

| 科目区分 | | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | |
|------------------|----------------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|-----------------------|------------------|----------------------------|
| 専 門 科 目 | 基礎看護学 | 基礎看護学特論Ⅰ 基礎看護学特論Ⅱ 基礎看護学特殊研究 | 教 教 | 授 授 | 新 井 | 直 見 | 子 子 |
| | 成人看護学 | 成人看護学特論Ⅰ | 教 教 | 授 授 | 南 林 | 川 雅 | と 子 |
| | | 成人看護学特論Ⅱ 成人看護学特殊研究 | 教 准 講 | 授 授 師 | 南 林 古 瀧 星 | 川 屋 田 野 | と 子 み 子 香 彦 |
| | リプロダクティブ ヘルス・ライツ 看護学 | 母性看護学特論Ⅰ 母性看護学特論Ⅱ 母性看護学特殊研究 | 教 教 | 授 授 | 梶 原 | 祥 子 | 子 |
| | 小児看護学 | 小児看護学特論Ⅰ 小児看護学特論Ⅱ | 教 教 | 授 授 | 三 木 | 祐 子 | 子 |
| | | 小児看護学特殊研究 | 教 准 講 | 授 授 師 | 三 石 | 木 見 | 祐 和 |
| | 精神看護学 | 精神看護学特論Ⅰ 精神看護学特論Ⅱ | 教 教 | 授 授 | 寺 岡 | 征 太 郎 | 子 |
| | | 精神看護学特殊研究 | 教 講 講 | 授 師 師 | 寺 伊 大 河 | 岡 藤 内 | 征 文 敦 |
| | 地域・公衆衛生 看護学 | 地域・公衆衛生学特論Ⅰ 地域・公衆衛生学特論Ⅱ | 教 教 | 授 授 | 山 崎 | 恭 子 | 子 |
| | | 地域・公衆衛生学特殊研究 | 教 講 | 授 師 | 山 江 | 崎 口 | 恭 優 |
| | 高齢者看護学 | 高齢者看護学特論Ⅰ 高齢者看護学特論Ⅱ | 教 教 | 授 授 | 鈴 木 | 久 美 子 | 子 |
| | | 高齢者看護学特殊研究 | 教 准 講 | 授 授 師 | 鈴 黒 | 木 白 | 久 恵 |

診療放射線学専攻 博士前期課程 診療放射線コース

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | |
|------------|----------------|-------------|-----------------|---------------|-----------------|-----------------|--|--|
| 共通科目 | 科学研究・論文技法学 | 教 授 | 石 川 ひ ろ の | 他 | | | | |
| | | 教 授 准 講 師 | 大 古 富 齋 小 横 林 伊 | 谷 德 田 藤 島 塚 東 | 浩 純 博 祐 慎 記 達 利 | 樹 一 信 樹 也 代 也 宗 | | |
| | 放射線科学特論 | 教 授 講 師 | 大 富 横 | 谷 田 塚 | 浩 博 記 | 樹 信 代 | | |
| | 科学英語特論 | 教 授 講 師 | 岡 大 富 横 林 | 本 谷 田 塚 | 孝 浩 博 記 達 | 英 樹 信 代 也 | | |
| | 医用画像基礎読影学 | 教 授 准 講 師 | 岡 神 太 横 | 本 長 塚 田 | 孝 達 記 | 英 郎 樹 代 | | |
| | 医用画像情報学特論 I | 教 授 | 岡 本 | 孝 | 英 | | | |
| | 医用機器品質管理学 | 教 授 講 師 | 大 岡 富 齋 | 谷 本 田 藤 | 浩 孝 博 祐 | 樹 英 信 樹 | | |
| | 放射線技術学特論（治療） | 教 授 | 大 古 | 谷 德 | 浩 純 | 樹 一 | | |
| | 放射線技術学特論（核医学Ⅰ） | 講 師 授 授 師 | 横 大 古 伊 | 塚 谷 德 東 | 記 浩 純 利 | 代 樹 一 宗 | | |
| | 放射線技術学特論（核医学Ⅱ） | 講 師 授 授 師 | 伊 大 古 横 | 東 谷 德 塚 | 利 浩 純 記 | 宗 樹 一 代 | | |
| | 専門科目 | 統計科学 | 教 授 | 古 德 | 純 | 一 | | |
| 物理数学 | | 教 授 | 古 德 | 純 | 一 | | | |
| 数値計算 | | 教 授 | 古 德 | 純 | 一 | | | |
| 力学特論 | | 教 授 | 大 谷 | 浩 | 樹 | | | |
| 量子力学特論 | | 教 授 | 大 谷 | 浩 | 樹 | | | |
| 熱力学・統計力学 | | 教 授 | 大 谷 | 浩 | 樹 | | | |
| 放射線物理学特論 | | 教 授 | 齋 藤 | 祐 | 樹 | | | |
| 電磁気学 | | 教 授 | 齋 藤 | 祐 | 樹 | | | |
| 医用画像情報学特論Ⅱ | | 教 授 准 講 師 | 岡 富 齋 小 横 林 | 本 田 藤 島 塚 | 孝 博 祐 慎 記 達 | 英 信 樹 也 代 也 | | |
| 医用画像情報工学特論 | | 教 授 准 講 師 | 富 小 | 田 島 | 博 慎 | 信 也 | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | |
|--------|--------------|---|---|--|--|--------------------------------------|--|
| 専門科目 | 医用画像情報学特論Ⅱ | 教 教 教 准 講 講 | 授 授 授 授 師 師 | 岡 富 齋 小 横 林 | 本 田 藤 島 塚 | 孝 博 祐 慎 記 達 | 英 信 樹 也 代 也 |
| | 医用画像情報工学特論 | 教 准 教 | 授 授 師 | 富 小 横 | 田 島 | 博 慎 | 信 也 |
| 専門科目 | 核化学特論 | 講 講 | 師 師 | 横 伊 | 塚 東 | 記 利 | 代 宗 |
| | 医用画像処理学特論 | 教 講 | 授 師 | 岡 林 | 本 | 孝 達 | 英 也 |
| | 環境放射線科学Ⅰ | 教 教 教 | 授 授 授 | 大 岡 齋 | 谷 本 藤 | 浩 孝 祐 | 樹 英 樹 |
| | 診療画像技術学特論 | 教 教 講 講 | 授 授 師 師 | 岡 富 林 横 | 本 田 塚 | 孝 博 達 記 | 英 信 也 代 |
| | 救急撮影技術学特論 | 教 教 准 教 | 授 授 授 師 | 岡 富 小 横 | 本 田 島 | 孝 博 慎 | 英 信 也 |
| 専門実習科目 | 診療画像技術学臨床実習 | 教 教 准 講 教 | 授 授 授 師 | 岡 富 小 林 | 本 田 島 | 孝 博 慎 達 | 英 信 也 也 |
| | 核医学検査技術学臨床実習 | 教 講 講 | 授 師 師 | 岡 横 伊 | 本 塚 東 | 孝 記 利 | 英 代 宗 |
| | 放射線治療技術学臨床実習 | 教 教 | 授 授 | 岡 大 | 本 谷 | 孝 浩 | 英 樹 |
| | 先端医療施設臨床実習 | 教 教 教 教 | 授 授 授 授 | 岡 大 古 富 | 本 谷 徳 田 | 孝 浩 純 博 | 英 樹 一 信 |
| 専門科目 | 診療放射線学特別研究 | 教 教 教 教 教 准 准 講 講 | 授 授 授 授 授 授 師 師 師 | 岡 大 富 齋 神 太 小 横 横 伊 | 本 谷 田 藤 長 田 島 塚 塚 東 | 孝 浩 博 祐 達 慎 記 利 | 英 樹 信 樹 郎 樹 也 代 代 宗 |

診療放射線学専攻 博士前期課程 医学物理士コース

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | |
|------|-----------------|-------------|---|--------------|---|----|---|
| 共通科目 | 科学研究・論文技法学 | 教 | 授 | 石 | 川 | ひろ | の |
| | | | | (公衆衛生学研究科) 他 | | | |
| | 放射線科学特論 | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| | | 教 | 授 | 古 | 徳 | 純 | 一 |
| | 放射線技術学特論 (治療) | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| | | 教 | 授 | 古 | 徳 | 純 | 一 |
| | 放射線技術学特論 (核医学Ⅰ) | 講 | 師 | 横 | 塚 | 記 | 代 |
| | | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 一 |
| | 放射線技術学特論 (核医学Ⅱ) | 講 | 師 | 伊 | 東 | 利 | 宗 |
| | | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| 専門科目 | 統計科学 | 教 | 授 | 古 | 徳 | 純 | 一 |
| | 物理数学 | 教 | 授 | 古 | 徳 | 純 | 一 |
| | 数値計算 | 教 | 授 | 古 | 徳 | 純 | 一 |
| | 力学特論 | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| | 量子力学特論 | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| | 熱力学・統計力学 | 教 | 授 | 大 | 谷 | 浩 | 樹 |
| | 放射線物理学特論 | 教 | 授 | 齋 | 藤 | 祐 | 樹 |
| | 電磁気学 | 教 | 授 | 齋 | 藤 | 祐 | 樹 |
| | 医用画像情報学特論Ⅱ | 教 | 授 | 岡 | 本 | 孝 | 英 |
| | 教 | 授 | 富 | 田 | 博 | 信 | |
| | 教 | 授 | 齋 | 藤 | 祐 | 樹 | |
| | 教 | 授 | 小 | 本 | 博 | 樹 | |
| | 教 | 授 | 横 | 田 | 祐 | 代 | |
| | 講 | 師 | 林 | 塚 | 慎 | 也 | |
| | 講 | 師 | 伊 | 東 | 記 | 也 | |
| | 講 | 師 | 大 | 谷 | 達 | 宗 | |
| | 講 | 師 | 富 | 本 | 達 | 代 | |
| | 講 | 師 | 横 | 田 | 記 | 也 | |
| | 講 | 師 | 林 | 塚 | 達 | 也 | |

医療技術学研究科

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | |
|------|--------------|-------------|----|----|----|----|-----|
| 専門科目 | 解剖学特論 | 教准 | 教授 | 大谷 | 浩 | 樹 | 樹 |
| | 生理学特論 | 教准 | 教授 | 大谷 | 浩 | 樹 | 樹 |
| | 放射線腫瘍学 | 教准 | 教授 | 大谷 | 浩 | 樹 | 樹 |
| | 放射線計測学特論 | 教 | 授 | 大谷 | 浩 | 樹 | 樹 |
| | 原子核物理学 | 教 | 授 | 大谷 | 浩 | 樹 | 樹 |
| 実習科目 | 診療画像技術学臨床実習 | 教准 | 教授 | 岡富 | 本島 | 孝博 | 英信也 |
| | 核医学検査技術学臨床実習 | 教講 | 授師 | 岡横 | 本塚 | 孝記 | 英代宗 |
| | 放射線治療技術学臨床実習 | 教教 | 授授 | 岡大 | 本谷 | 孝浩 | 英樹 |
| | 医学物理総合実習 | 教教 | 授授 | 岡大 | 本谷 | 孝浩 | 英樹 |
| | 先端医療施設臨床実習 | 教教 | 授授 | 岡大 | 本谷 | 孝浩 | 英樹 |
| 科専門 | 医学物理特別研究 | 教教 | 授授 | 大古 | 谷徳 | 浩純 | 樹一 |

※医学物理士認定機構による「認定医学物理教育コース」に認定されています。

診療放射線学専攻 博士後期課程 診療放射線コース

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | |
|--------|-------------|-------------|---|--------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 専門科目 | 医療管理・経営学 | 教 准 | 教 | 授 授 | 岡 小 | 本 島 | 孝 慎 | 英 也 |
| | 医用画像読影学 | 教 准 | 教 | 授 授 | 岡 神太伊 | 本 長田東 | 孝 達利 | 英 郎樹宗 |
| | 環境放射線科学Ⅱ | 教 教 | 教 | 授 授 | 大 岡齋 | 谷 本藤 | 浩 孝祐 | 樹 英樹 |
| 専門実習科目 | 診療画像技術学臨床実習 | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 富横林 | 本 田塚 | 孝 博記達 | 英 信代也 |
| | 放射線治療学臨床実習Ⅰ | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 大 | 本 谷 | 孝 浩 | 英 樹 |
| | 先端医療施設臨床実習 | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 大古富 | 本 谷徳田 | 孝 浩純博 | 英 樹一信 |
| 専門科目 | 診療放射線学特殊研究 | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 富齋小横林伊 | 本 田藤島塚東 | 孝 博祐慎記達利 | 英 信樹也代也宗 |

診療放射線学専攻 博士後期課程 医学物理士コース

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | |
|--------|---------------|-------------|---|--------|----------|----------|----------|----------|
| 専門科目 | 医療管理・経営学 | 教 准 | 教 | 授 授 | 岡 小 | 本 島 | 孝 慎 | 英 也 |
| | 医用画像読影学 | 教 准 | 教 | 授 授 | 岡 太伊 | 本 田東 | 孝 利 | 英 樹宗 |
| | 環境放射線科学Ⅱ | 教 教 | 教 | 授 授 | 大 岡齋 | 谷 本藤 | 浩 孝祐 | 樹 英樹 |
| 専門実習科目 | 放射線治療学臨床実習Ⅰ・Ⅱ | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 大 | 本 谷 | 孝 浩 | 英 樹 |
| | 先端医療施設臨床実習 | 教 教 | 教 | 授 授 | 岡 大古富 | 本 谷徳田 | 孝 浩純博 | 英 樹一信 |
| 科目 | 医学物理特殊研究 | 教 教 | 教 | 授 授 | 大 古 | 谷 徳 | 浩 純 | 樹 一 |

※医学物理士認定機構による「認定医学物理教育コース」認定の申請にむけて準備を進めています。

臨床検査学専攻 博士前期課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | | | |
|-------------|----------------------------|-------------|---|---|---|----|---|---|---|---|
| 共通科目 | 研究倫理 | 教 | 授 | 石 | 川 | ひろ | の | 他 | | |
| | 生理機能検査学 | 准 | 准 | 授 | 授 | 増 | 山 | 里 | 枝 | 子 |
| | 人体システム生理学 | 准 | 教 | 授 | 授 | 増 | 山 | 里 | 枝 | 子 |
| | 研究情報処理方法 | 教 | 授 | 榎 | 村 | 浩 | 一 | | | |
| | 分子代謝生化学 | 准 | 教 | 授 | 授 | 赤 | 間 | 真 | 剛 | 里 |
| 臨床検査医学専門科目 | 細胞病理検査学講義 細胞病理検査学演習 | 教 | 授 | 望 | 月 | 佳 | 真 | 奈 | | |
| | 分子生物学講義 分子生物学演習 | 教 | 授 | 鈴 | 木 | 幸 | 一 | 里 | | |
| | 臨床病態生理学講義 臨床病態生理学演習 | 教 | 授 | 望 | 月 | | 真 | | | |
| | 画像生理情報解析学講義 画像生理情報解析学演習 | 准 | 教 | 授 | 授 | 増 | 山 | 里 | 枝 | 子 |
| | 臨床検査医学特別研究 | 教 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 | 授 |
| 臨床検査技術学専門科目 | 先端血液解析学講義 先端血液解析学演習 | 准 | 教 | 授 | 授 | 福 | 田 | 晃 | 子 | 記 |
| | 感染制御学講義 | 教 | 授 | 後 | 藤 | 一 | 浩 | 雄 | | |
| | 病原体検査学講義 病原体検査学演習 | 准 | 教 | 授 | 授 | 松 | 村 | 幸 | 一 | 雄 |
| | 生体防御機能解析学講義 生体防御機能解析学演習 | 教 | 授 | 鈴 | 木 | 幸 | 浩 | 一 | 一 | 寛 |

医療技術学研究所

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 |
|-------------|-------------|---|
| 臨床検査技術学専門科目 | 臨床検査技術学特別研究 | 教 授 鈴 木 幸 一 一 教 授 後 藤 月 雄 眞 教 授 望 藤 大 眞 記 教 授 大 榎 加 福 子 淳 准 准 松 田 一 墨 准 准 福 村 子 子 准 准 松 田 充 子 准 准 増 崎 子 子 准 准 後 赤 宮 枝 子 講 師 宮 剛 奈 講 師 宮 寛 嗣 |

臨床検査学専攻 博士後期課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 |
|------|---------------|---|
| 専門科目 | 生理機能検査学特論 | 准 授 増 山 里 枝 子 准 准 教 教 授 咲 間 妙 と 子 教 教 授 授 崎 原 こ え 教 教 授 授 大 藤 井 孝 浩 淳 准 准 教 教 授 福 村 田 晃 一 子 教 教 授 授 望 月 眞 眞 教 教 授 授 鈴 後 木 幸 一 一 教 教 授 授 藤 藤 村 浩 一 充 准 准 講 師 松 龜 貴 寛 准 准 教 教 授 赤 後 間 眞 剛 教 教 授 授 鈴 後 木 幸 一 一 教 教 授 授 藤 藤 大 眞 記 教 教 授 授 大 榎 加 福 子 淳 准 准 准 准 松 田 充 子 准 准 准 准 福 村 子 子 准 准 准 准 増 崎 子 子 准 准 准 准 後 赤 宮 枝 子 講 師 宮 剛 奈 講 師 宮 寛 嗣 |
| | 病態情報解析学特論 | |
| | 病理検査学特論 | |
| | 感染生体防御機能解析学特論 | |
| | 臨床化学検査学特論 | |
| | 臨床検査学特殊研究 | |

スポーツ健康科学専攻 修士課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | |
|------------------|----------------------------|-----------------------------------|---------------------|------------|----------|----------------|--|
| 基礎科目 | スポーツ健康科学研究法特講 | 教授 准教授 非常勤講師 | 蛭宮宮 | 間本川 | 栄宗 | 介亘之 | |
| | スポーツ生理学特講 | 教授 | 蛭間 | 栄介 | | | |
| | スポーツバイオメカニクス特講 | 准教授 講師 | 佐佐 | 保賀 | 泰典 | 明生 | |
| | 機能解剖学特講 | 准教授 講師 | 浅加 | 野藤 | 安 | 信基 | |
| | スポーツ社会学特講 | 教授 | 清島 | 水崎 | 正直 | 典樹 | |
| | 国際スポーツ健康科学特講 | 教授 教授 教授 教授 准教授 講師 | 清蛭深川 佐加 | 水間井田 保藤 | 正栄 茂泰 | 典介厚 雄明 基 | |
| 専門科目 スポーツ科学領域 | コンディショニング・ リコンディショニング特講 | 准教授 講師 | 佐加 | 保藤 | 泰 | 明基 | |
| | コンディショニング・ リコンディショニング演習 | 准教授 講師 | 佐加 | 保藤 | 泰 | 明基 | |
| | 体力・動作測定特講 | 准教授 講師 | 佐加佐 | 保藤賀 | 泰典 | 明基生 | |
| | 体力・動作測定演習 | 准教授 講師 | 佐加佐 | 保藤賀 | 泰典 | 明基生 | |
| | コーチング学特講 | 教授 | 岩出 | 雅 | 之 | | |
| | スポーツ外傷・障害学特講 | 教授 | 深井 | 厚 | | | |
| | スポーツ救急処置特講 | 准教授 准教授 | 宮笹 | 本原 | 亘潤 | | |
| | スポーツ栄養学特講 | 講師 | 横田由香里 (スポーツ医療学科) | | | | |
| | 障がい者スポーツ特講 | 教授 教授 准教授 | 佐蛭佐 | 藤間保 | 真栄泰 | 治介明 | |
| アンチ・ドーピング特講 | 2024年度 非開講 | | | | | | |
| 健康科学領域 専門科目 | 健康運動処方特講 | 教授 | 佐藤 | 真治 | | | |
| | 健康運動処方演習 | 教授 | 佐藤 | 真治 | | | |
| | 細胞生物学特講 | 教授 准教授 | 川浅 | 田野 | 茂安 | 雄信 | |
| | 細胞生物学演習 | 教授 准教授 | 川浅 | 田野 | 茂安 | 雄信 | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 |
|----------------|---------------|---|
| 専門科目 健康科学領域 | 健康体力学特講 | 教授 蛭 間 栄 介 |
| | 生活習慣病特講 | 教授 滝 川 一 |
| | 衛生学・公衆衛生学特講 | 非常勤講師 宮 川 宗 之 |
| | スポーツ内科学特講 | 2024年度 非開講 |
| | 健康免疫学特講 | 講師 宮 下 惇 嗣 (医真菌研究センター) |
| | 衛生化学特講 | 准教授 山 田 剛 (医真菌研究センター) |
| 特別研究科目 | スポーツ健康科学特別研究※ | 教授 佐 藤 真 治 * 教授 清 水 正 典 * 教授 滝 川 一 * 教授 蛭 間 栄 介 * 教授 島 崎 直 樹 * 教授 島 深 井 田 茂 厚 雄 * 准教授 宮 本 原 巨 濶 * 准教授 笹 原 保 泰 明 * 准教授 佐 浅 野 泰 安 信 基 講師 加 藤 成 基 |
| 自由科目 | 保健体育科教育学特講 | 教授 高 田 彬 成 (教育文化学科) |
| | 保健体育科教育学演習 | 教授 高 田 彬 成 (教育文化学科) |

※指導教員は特別研究科目の*がついている担当教員から選択してください。

柔道整復学専攻 修士課程

| 科目区分 | 授業科目名 | 指導教員および担当教員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|----------------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 医療技術学研究法特論 | 教 | 授 | 櫻 | 井 | 庄 | 二 | | | | | | | | | | | |
| | 生理学特論 | 講 | 師 | 坪 | 島 | 功 | 幸 | | | | | | | | | | | |
| | 組織学特論 | 教 | 授 | 星 | | 秀 | 夫 | | | | | | | | | | | |
| | 医科免疫学特論 | | | 休 | | | 講 | | | | | | | | | | | |
| | 再生医科学特論 | 准 | 教 | 授 | 阿 | 部 | 弘 | 之 | | | | | | | | | | |
| | 神経科学特論 | 講 | 師 | 坪 | 島 | 功 | 幸 | | | | | | | | | | | |
| | 運動生理学特論 | 助 | 教 | 東 | | 文 | 博 | | | | | | | | | | | |
| | 健康増進科学特論 | 講 | 師 | 劔 | 持 | 佑 | 起 | | | | | | | | | | | |
| 専門科目 | 柔道整復学特論 | 講 | 師 | 刈 | 屋 | | 遵 | | | | | | | | | | | |
| | 柔道整復学演習 | 教 | 授 | 櫻 | 井 | 庄 | 二 | | | | | | | | | | | |
| | 柔道整復臨床データ解析学特論 | 准 | 教 | 授 | 田 | 口 | 大 | 輔 | | | | | | | | | | |
| | 柔道整復臨床データ解析学演習 | 教 | 授 | 荒 | 木 | 誠 | 一 | | | | | | | | | | | |
| | 応用運動学柔道整復特論 | 助 | 教 | 広 | 瀬 | 健 | 一 | | | | | | | | | | | |
| | 応用運動学柔道整復演習 | 助 | 教 | 二 | 連 | 木 | 巧 | | | | | | | | | | | |
| | スポーツ障害柔道整復学演習 | 准 | 教 | 授 | 庄 | 司 | 智 | 則 | | | | | | | | | | |
| 研究指導 | 柔道整復学特別演習 I | 教 | 授 | 安 | 荒 | 北 | 櫻 | 星 | 阿 | 庄 | 田 | 刈 | 劔 | 坪 | 東 | 二 | 広 | 森 |
| | 柔道整復学特別演習 II | 教 | 授 | 安 | 荒 | 北 | 櫻 | 星 | 阿 | 庄 | 田 | 刈 | 劔 | 坪 | 東 | 二 | 広 | 森 |
| 研究指導 | 柔道整復学特別研究 I | 教 | 授 | 安 | 荒 | 北 | 櫻 | 星 | 阿 | 庄 | 田 | 刈 | 劔 | 坪 | 東 | 二 | 広 | 森 |
| | 柔道整復学特別研究 II | 教 | 授 | 安 | 荒 | 北 | 櫻 | 星 | 阿 | 庄 | 田 | 刈 | 劔 | 坪 | 東 | 二 | 広 | 森 |

4. 公衆衛生学研究科

1. 公衆衛生学研究科について（概要）

◇公衆衛生学専攻

- ・ 専門職学位課程 Master of Public Health ; MPH …………… 1年コース／2年コース
- ・ 博士後期課程 Doctor of Public Health ; DrPH …………… 修業年限3年

1. グローバルスタンダードを超える MPH・DrPH を目指して

帝京大学大学院公衆衛生学研究科（帝京 SPH）では 2011 年の設立当初より、公衆衛生専門職教育の国際的水準である基本 5 領域と体系的な学びを実現させてきました。しかし、現在、世界では激変する社会情勢と、複雑で解決困難な問題が人々の健康を阻んでいます。そのため、社会を見据えた総合的な能力を持つ保健医療専門職を育成する方向に世界でも教育改革が行われています。公衆衛生の専門職も例外ではありません。

転換期にある世界の公衆衛生教育（SPH 教育）。公衆衛生に強みを持つ日本だからこそ、国際的に通用する人材を育成したい。そこで、帝京 SPH は日本で初めて MPH・DrPH の両課程にコンピテンシー基盤型教育を導入するなど、常に国際的に通用する公衆衛生専門家の育成に努めてきました。新しいカリキュラム開発などの先進的な取り組みを進め、日本での SPH 教育をリードしています。

2. コンピテンシー基盤型教育

社会を変える人（Change Agent）を育てる。それは公衆衛生の分野だけでなく、広く私たち社会全体でも求められています。日本でも世界でも、人々の健康を守り維持するためには多くの課題があります。健康にかかわる人は医療従事者だけではありません。ときには行政、住民、民間企業、NGO、政治家などを巻き込んだ問題解決が必要であり、多くの人々と対話することで、より健康的な社会にする方策を議論する必要もあります。こうなると科学的知識や学術的素養だけでは公衆衛生の専門家育成はできません。そこにはコミュニケーション能力や、リーダーシップ、社会を動かす力（アドボカシー）も必要です。

社会を変えうる人材の育成。そこで注目されているのが、コンピテンシー（すなわち、高い能力を持つ人が備えている資質）を鍛える教育です。帝京大学では MPH、DrPH の各課程にコンピテンシーを掲げて教育をしています。

3. 公衆衛生の基本 5 領域

公衆衛生を体系的に学ぶために疫学、生物統計学、産業環境保健学、社会行動科学、保健政策・医療管理学の 5 領域を基幹としています。帝京 SPH は各領域の基礎科目を必修にし、専門の教員がこれらの科目を担当しています。さらに、各領域に選択科目を多く設け、基礎的な学びから発展的な探求に対応できるようにしています。

4. 問題解決型アプローチ

公衆衛生の課題を解決するには、1つのテーマだけに興味を持って、仮説をたてデータを科学的に分析し、結果を論文などで発表するだけでは足りません。社会問題を取り上げて分析した後、その結果を基に政策やプロジェクトを企画立案し、実施に向けてステークホルダーと交渉することが求められます。帝京SPHでは以下の8段階から成る問題解決型アプローチの習得を目指した教育を行っています。問題を発見して情報を収集し、得たデータを分析するだけでなく、そこで得られた知見に基づき、いかにして問題を解決していくのか、あらゆる方策を考えます。そのときにステークホルダー分析や医療経済分析が欠かせないこともあります。多角的側面から問題を捉え、柔軟な発想で問題解決策を考え、評価する能力を身に付けます。

問題解決型アプローチの8段階

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ① 問題の認知・発見 | ⑤ 利害関係者（ステークホルダー）の特定 |
| ② 問題の定式化 原因と結果 | ⑥ 対策案の作成・優先順位の決定 |
| ③ 問題の程度の定量化・定性化 | ⑦ 実施計画の立案・実施 |
| ④ 文献の情報収集・批判的検討 | ⑧ 評価 |

2. 出願から入学までの流れ

1. アドミッション・ポリシー、出願資格の確認

↓
アドミッション・ポリシーおよび志望する課程の出願資格を確認してください。なお、出願資格によっては、出願手続き前に個別入学資格審査を受ける必要があります。

2. 出願手続

↓
インターネット出願サイトで登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出してください。
※出願締切日必着

3. 入学試験

↓
受験票は各自で印刷し、当日会場へご持参ください。

4. 合否発表および入学手続き

↓
Webによる合否照会システムを利用することができます。
納入金は、合格発表日から入学手続き締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。

5. 入学

注) 博士後期課程入学希望者は、出願前に指導を希望する教員と個別面談を持つこと

注) 入学後も社会人（常勤）として通学する場合は事前に職場に相談すること

3. 募集人員および出願資格（専門職学位課程）

1. アドミッション・ポリシー

公衆衛生学研究科専門職学位課程は、学部教育等の学修や実務経験を通じて、次に掲げる意欲・資質・能力を備えた入学者を希望し、選抜する。

1. 公衆衛生に関する問題意識を持っており、専門家としての潜在能力が高い。
2. 協調性を持ってコミュニケーションを図り、共に学ぶ姿勢がある。
3. 研究や実践活動に取り組むための基本的学力を備え、論理的に考えられる。
4. 公衆衛生の実践的課題解決に取り組む意欲がある。

2. 入学定員

1年コース・・・10名

2年コース・・・20名

3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、または次の各号のいずれかに2025年3月末日までに該当する見込みの者。

- (1) 大学を卒業した者。
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者。
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。
- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることとその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者。
- (6) 文部科学大臣の指定した者。
- (7) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者。

※専門学校を卒業した者は、入学資格審査の対象となります。

※(7)に該当し、出願しようとする者については、事前に入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められる。希望する者は、本学ホームページを参照すること。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

〔出願要件〕

※専門職学位課程1年コースに出願できる者は、上記の出願資格の要件を満たし、かつ以下に定める実務経験を有する者が対象となる。(臨床研修も実務とみなす)。

| 出願資格 | 実務経験年数 | 対象となる実務経験 |
|---|-----------------------|--|
| 6年制大学卒業 (医・歯・薬・獣医学部など) | 2年以上 | 病院・診療所等の医療機関、保健医療関係の行政機関や非営利団体、医薬品産業等における実務経験を意味する。なお、実務経験者に該当するか否かは、上記定義を形式基準としつつ、試験時の個別判断により最終認定するものとする。 |
| 医療系修士課程 (薬学・看護学・保健学など) 修了者 | 2年以上 | |
| 上記以外の修士課程修了者 | 2年以上 | |
| 4年制大学卒業 | 3年以上 | |
| 短期大学または専門学校 (修業年限3年以上) 卒業で、 22歳以上の者 | 医療技術系国家資格 取得後、3年以上 | |

4. 教育訓練給付制度

本研究科専門職学位課程2年コースは、厚生労働省の専門実践教育訓練指定講座です。制度についての詳細は「専門実践教育訓練の給付金のご案内」をご確認ください。なお、「専門実践教育訓練給付金」を受給するためには、ご入学1ヶ月前までにハローワークでの手続きが必要です。受講開始日前に訓練対応キャリアコンサルタントによる訓練前キャリアコンサルティングを受けなければ、「専門実践教育訓練給付金」は受けられません。

受講開始予定日における、専門実践教育訓練給付金の受給資格の有無について、ハローワークに照会(支給要件照会)することができます。ご自身の受給資格の有無が明らかでない方は、この照会によってあらかじめご確認ください。

なお、長期履修生、留年者、休学者は給付の対象とはなりません。

ハローワーク HP : https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance_education.html

3. 募集人員および出願資格（博士後期課程）

1. アドミッション・ポリシー

公衆衛生学研究科博士後期課程は、学修や実務経験を通じて、次に掲げる意欲・資質・能力を備えた入学者を希望し、選抜する。

1. 公衆衛生に関連する一定の経験と明確な問題意識による解決したい課題を持っており、将来性に優れている。
2. 目的を持って共に学び、公衆衛生に取り組む協調性がある。
3. 研究や実践活動にリーダーとして取り組むための基本的学力と論理的思考力を有する。
4. 公衆衛生の実現のために必要なコミュニケーション能力がある。
5. Change Agent を目指す明確な意欲がある。

2. 入学定員

博士後期課程・・・6名

3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、または次の各号のいずれかに2025年3月末日までに該当する見込みの者。

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者。
- (2) 外国において、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) 本研究科の定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者。

※6年制の学部を卒業した者は、入学資格審査の対象となる。

※(1) 取得見込みの出願者については、入学時に資格を得られなかった場合は入学許可を取り消す。

※(5) に該当し、出願しようとする者については、事前に入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められる。希望する者は、本学ホームページを参照すること。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

4. 長期履修

長期履修とは、社会人等に配慮し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することです。

1. 修業年限（カッコ内は在学年限）

専門職学位課程 2年コース：3年（4年）

博士後期課程：4年（6年）

2. 学費

標準修業年限の総額を長期履修許可年限で除した額を1年間の学費とします（別途、年数分の保険費が必要）。なお、専門職学位課程は、専門実践教育訓練指定講座ですが、長期履修生は給付の対象外です。

3. 申請時期および履修期間の変更

長期履修を希望する場合は、出願時に申請をしてください。出願後の申請はできません。

なお、入学後の長期履修期間の変更は1回限り、1年間の短縮が可能です。短縮した際は、通常の学生と同じ金額となるように学費の支払いが発生いたします。

4. 申請方法

「長期履修申請書」に必要事項を記入してください。「申請理由」欄には長期履修を希望する具体的な理由を明記してください。また、「指導を希望する教員との事前相談」の際に、十分お打ち合わせの上、指導予定教員の意見ならびに承認印を得てください。「長期履修申請書」は出願時に提出してください。

※詳細は事務部担当者にお問い合わせください（77ページ「5. 出願場所および試験場案内」）。

5. 入学試験

1. 日程

| 時期区分 | 出願期間 | 選考試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日 |
|------------------------------|-------------------------------|---|--------------------|--------------------|
| Ⅰ期 (専門職学位) 第1回 (博士) | 出願開始日時 2024年8月26日(月)9:00 | 2024年 9月12日(木) または、 9月17日(火) | 2024年 9月27日(金) | 2024年 10月4日(金) |
| | 出願締切日時 2024年9月6日(金)16:30 | | | |
| Ⅱ期 (専門職学位) 第2回 (博士) | 出願開始日時 2024年10月15日(火)9:00 | 2024年 11月7日(木) または、 11月9日(土) | 2024年 11月22日(金) | 2024年 11月29日(金) |
| | 出願締切日時 2024年10月25日(金)16:30 | | | |
| Ⅲ期 (専門職学位) 第3回 (博士) | 出願開始日時 2024年11月25日(月)9:00 | 2024年 12月17日(火) または、 12月19日(木) | 2025年 1月17日(水) | 2025年 1月24日(金) |
| | 出願締切日時 2024年12月10日(火)16:30 | | | |
| Ⅳ期 (専門職学位) 第4回 (博士) | 出願開始日時 2025年2月10日(月)9:00 | 2025年 2月27日(木) または、 3月4日(火) | 2025年 3月13日(木) | 2025年 3月19日(水) |
| | 出願締切日時 2025年2月21日(金)16:30 | | | |

※定員に達し次第、募集を終了する場合があります。

2. 試験場

帝京大学板橋キャンパス大学棟本館(77ページ「5. 出願場所および試験場案内」を参照してください。)

※大学棟本館1階(病院側)出入口をご利用ください。

※試験室の詳細は別途ご連絡します。

※試験場へは公共の交通機関をご利用ください。

3. 選抜方法

入学者の選抜は、書類審査(志望理由書等)、口述試験、英語能力の総合判定とする。

4. 英語資格試験

2020年4月1日以降に受験したTOEFL iBT、IELTS Academic module、TOEIC® Listening & Reading 公開テストの成績証明書のコピーをご提出ください。なお、基準点はありません。いずれの提出ができない場合のみ、以下日時にオンラインの英語試験CASECを本学にて自費で受けていただきます。

CASEC 試験実施日

① 2024年11月7日(木) 13:00～17:00

② 2025年3月4日(火) 13:00～17:00

5. 受験上の注意

大学が指定した日時に必ず口述試験を受験してください。

※海外勤務等により Web 上での口述試験を希望する場合は、事前にご相談ください。試験日決定後の申し出は受け付けできません。

6. 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、治癒していない場合は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。

なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調管理については、十分に注意してください。

6. 出願書類

1. 出願書類

専門職学位課程

| | |
|-----------------------------|---|
| ① 入学願書・別紙 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ② 志望理由書※ | 所定の様式。 |
| ③ 研究計画書※ | 所定の様式。 |
| ④ 業績一覧表※ | 所定の様式。業績がない場合は、その旨を記載すること。 |
| ⑤ 成績証明書 | 最終学歴校の学校長等が作成したもの。 |
| ⑥ 卒業証明書 修了証明書 | なお、医療系の学校を卒業・修了した者は、医療系全ての成績証明書、卒業証明書・修了証明書を提出すること。 在学中の場合は、成績証明書、卒業見込証明書・修了見込証明書を提出し、卒業・修了後に成績証明書、卒業証明書・修了証明書を改めて提出してください。 |
| ⑦ 国家資格免許証のコピー | 医療系国家資格取得者のみ。 ※資格取得見込者は、取得後にコピーを郵送のこと。 |
| ⑧ 英語資格の成績証明書 | () 内の英語資格試験について、次のいずれかのコピーをご提出ください。 Test Taker Score Report (TOEFL iBT)、Test Report Form (IELTS Academic module)、Official Score Certificate (TOEIC® Listening & Reading 公開テスト) ※2020年4月1日以降に実施された試験のみ有効 いずれの提出も無い場合は、CASECを受けていただきます。 (詳細は53ページ参照) |
| ⑨ 職歴に関する証明書 (1年コース志願者のみ) | 実務経験年数(50ページ参照)を有することの所属長による証明(様式任意)。 |
| ⑩ 外国籍の方 | 外国籍の方はパスポートのコピー(顔写真のあるページと出入国時の記載・ビザスタンプのあるページ全て)をご提出ください。また、日本国内に居住している方は、在留カードの両面コピーを併せてご提出ください。 |
| ⑪ 長期履修申請書※ (長期履修希望者のみ) | 所定の様式。 |
| ⑫ その他 | 研究科が必要と認めたもの。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

【注意】①②③④⑪については、作成後、A4サイズの白紙に印刷してください。

- ・ 入学資格審査を受けた方は、書類(④、⑤、⑥、⑦)の再提出は不要です。
- ・ 証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人確認書類(戸籍抄本等)を提出してください。
- ・ 英語以外の外国語で作成されている書類については、公的機関や民間の翻訳会社等が発行する日本語の翻訳(原本)を必ず添付してください。
- ・ 長期履修は1年コースでは適用となりません。詳しくは、52ページ「4. 長期履修」をご覧ください。

博士後期課程

| | |
|---------------------------|---|
| ① 入学願書・別紙 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ② 志望理由書※ | 所定の様式。 |
| ③ 研究計画書※ | 所定の様式。 |
| ④ 業績一覧表※ | 所定の様式。業績がない場合は、その旨を記入すること。 |
| ⑤ 成績証明書 | 最終学歴校の学校長等が作成したもの。 |
| ⑥ 卒業証明書 修了証明書 | なお、医療系の学校を卒業・修了した者は、医療系全ての成績証書、卒業証明書・修了証明書を提出すること。 在学中の場合は、成績証明書、卒業見込証明書・修了見込証明書を提出し、卒業・修了後に成績証明書、卒業証明書・修了証明書を改めて提出してください。 |
| ⑦ 国家資格免許証のコピー | 医療系国家資格取得者のみ。 ※資格取得見込者は、取得後にコピーを郵送のこと。 |
| ⑧ 英語資格の成績証明書 | () 内の英語資格試験について、次のいずれかのコピーをご提出ください。 Test Taker Score Report (TOEFL iBT)、Test Report Form (IELTS Academic module)、Official Score Certificate (TOEIC® Listening & Reading 公開テスト) ※2020年4月1日以降に実施された試験のみ有効 いずれの提出も無い場合は、CASECを受けていただきます。 (詳細は53ページ参照) |
| ⑨ 修士論文 | 修士論文を執筆中の場合は、執筆途中の論文で可。 修士論文を執筆しなかった場合は、それに相当する成果物(※)。 ※これまでの学術的または実務的な業績を示す成果物を意味します。具体的には、リサーチペーパー(研究論文)、課題研究報告書、その他著作物(書籍、成果報告書など)を示す。 |
| ⑩ 外国籍の方 | 外国籍の方はパスポートのコピー(顔写真のあるページと出入国時の記載・ビザスタンプのあるページ全て)をご提出ください。 加えて、日本国内に居住している方は、在留カードの両面コピーをご提出ください。 |
| ⑪ 長期履修申請書※ (長期履修希望者のみ) | 所定の様式。 |
| ⑫ その他 | 研究科が必要と認めたもの。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

【注意】 ①②③④⑪については、作成後、A4サイズの白紙に印刷してください。

- ・ 入学資格審査を受けた方は、書類(④、⑤、⑥、⑦)の再提出は不要です。
- ・ 証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人確認書類(戸籍抄本等)を提出してください。
- ・ 英語以外の外国語で作成されている書類については、公的機関や民間の翻訳会社等が発行する日本語の翻訳(原本)を必ず添付してください。
- ・ 長期履修を希望する場合は、52ページ「4. 長期履修」をご覧ください。

7. 指導教員一覧

2024年7月1日現在

| 教 員 | | 専門分野（主） | 主な担当科目 |
|--------------|-----------|-----------------------|---|
| 教授 (研究科長) | 福 田 吉 治 | 産業環境保健学、 社会行動科学 | 産業環境保健学概論、産業保健学、社会疫学、 健康教育学、公衆衛生政策学 |
| 教授 | 石 川 ひろの | 社会行動科学 | 健康行動科学概論、ヘルスコミュニケーション 学、公衆衛生倫理学、リーダーシップ論 |
| 教授 | 今 井 博 久 | 疫学、 保健政策・医療管理学 | 保健政策・医療管理学概論 |
| 教授 (※) | 大 脇 和 浩 | 疫学 | 基礎疫学、臨床疫学、スタディクリティーク |
| 教授 | 口 羽 文 | 生物統計学 | データ解析演習 |
| 教授 (※) | 高 橋 謙 造 | 保健政策・医療管理学 | 地域保健学、国際母子保健学、質的研究、 調査・研究法概論 |
| 教授 (※) | 中 田 善 規 | 保健政策・医療管理学 | 保健政策・医療管理学概論、医療経済学、 リーダーシップ論 |
| 教授 | 宮 田 敏 | 生物統計学 | 基礎生物統計学、応用生物統計学、 社会調査データ解析概論 |
| 准教授 | 井 上 まり子 | 保健政策・医療管理学、 社会行動科学 | 保健政策・医療管理学概論、社会疫学、 Universal Health Coverage & Aging Society |
| 准教授 (※) | 小 原 崇 一 郎 | 保健政策・医療管理学 | 医療経済学 |
| 准教授 (※) | 金 森 悟 | 産業環境保健学、 社会行動科学 | 産業看護マネジメント論、産業環境保健学概論、 産業保健学、社会疫学 |
| 准教授 (※) | 鈴 木 明日香 | 生物統計学 | データ解析演習、臨床試験概論 |
| 講 師 | 天 笠 志 保 | 疫学、社会行動科学 | 基礎疫学、臨床疫学、健康医療情報学、 論文の書き方セミナー |
| 講 師 (※) | 津 田 洋 子 | 産業環境保健学 | 環境保健学、産業保健学、 産業環境保健学実習、リスク科学 |
| 講 師 (※) | 西 原 三 佳 | 保健政策・医療管理学 | 国際保健学概論、国際保健学演習、 国際保健学実習 |
| 助 教 | 山 田 卓 也 | 社会行動科学 | 健康行動科学概論、ヘルスデータ分析入門、 地域包括ケア学実習、公衆衛生倫理学、 健康教育学 |

(※) 実務家教員

5. 医療データサイエンスプログラム

1. 医療データサイエンスプログラムについて（概要）

1. 学位プログラム

人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society 5.0 時代が到来しつつあり、世の中全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進しています。

このような社会的背景のなか、医療の場においても専門分野の知識・能力に加えてデジタル化に必要な知識・能力を備えた人材が求められています。言い換えれば、医療現場から大規模に収集される多様なデータを利活用できる人材を育成することは、社会的要請でもあるといえます。

医療データサイエンスプログラムは、研究科等連係課程制度を活用して、学内6研究科の連携のもと、既存の分野の枠を越えて編成された多様な専門領域からなる分野横断型の学位プログラムです。

本学位プログラムでは、医療関連分野のデータを利活用して学術的・社会的な課題を自ら設定し、その解決方法を立案・実施・評価でき、他者と協働し問題を解決できる研究者・指導者の養成をめざします。

連係協力研究科は、以下のとおりです。

医学研究科 薬学研究科 理工学研究科 医療技術学研究科 保健学研究科 公衆衛生学研究科

2. 教育方法

教員が学生と柔軟に授業を行えるように、研究科目（「データサイエンス特別研究」）を除いて多様なメディアを高度に利用したオンライン授業でプログラムを実施します。

具体的には、オンデマンドおよび双方向システムを含むLMS(Learning Management System：学習管理システム)等を利用した授業を実施することにより、課題の提出や授業に関わる事前資料の入手が効果的にできます。またLMSを用いることにより、授業を行う教員が、授業の終了後すみやかにインターネットを介して設問回答、質疑応答などの十分な指導を行うことが可能です。

3. 課程について

主に、医療関連業務に従事している者や理学系等の大学院において修士課程を修了した者を対象に、医療関連分野のデータを利活用して学術的・社会的な課題の解決方法を立案し、それを実施・評価することにより、認知症をはじめとする中枢神経系疾患の原因解明や予防のための基礎研究、個人の体質にあわせた予防医療に関する研究、新しい医療サービスの実装（計画、実施、評価）などに貢献できる研究者・指導者の養成に重点を置いています。

課程を修了した者には「博士(学術)」(Doctor of Philosophy)の学位を授与します。

2. 出願から入学までの流れ

1. アドミッション・ポリシーの確認

アドミッション・ポリシーを確認してください。



2. 募集人員、出願資格、納入金、入学試験の確認

出願資格によっては、出願手続き前に入学資格審査を受ける必要があります。



3. 志望する専攻科目の指導教員からの了解

志望領域・分野を検討し、出願前に必ず本学の指導教授・指導教員から了解を得てください。



4. 出願手続

インターネット出願サイトで登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出してください。

※出願締切日必着



5. 入学試験

受験票は各自で印刷し、当日会場へご持参ください。



6. 合否発表および入学手続

Webによる合否照会システムを利用することができます。

納入金は、合格発表日から入学手続締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。



7. 入学

3. アドミッション・ポリシー

医療データサイエンスプログラムは、医療関連分野のデータを利活用して学術的・社会的な課題を自ら設定し、その解決方法を立案・実施・評価し、他者と協働し問題を解決できる研究者・指導者の養成を目指しています。そのため、修士課程等における専門知識と汎用能力を修得していること、データの利活用に意欲を持っていることが求められます。

修士課程等における学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. データのもつ重要性を認識し、高い倫理観と使命感を備えている。
2. 主体的に他者と協働することができるコミュニケーション能力を有する。
3. 自ら課題を見つけ解決しようとする強い意欲を有する。

4. 募集人員および出願資格

【博士後期課程】（修業年限3年）

1. 募集人員 3名

2. 出願資格

【出願資格】

次の各号のいずれかに該当する者、または次の各号のいずれかについて2025年3月31日までに該当する見込みの者

- (1) 修士の学位または専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本プログラムの定めるところにより、個別の入学資格審査をもって、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

※ (5) に該当し、出願しようとする者については、事前に個別入学資格審査を受け、入学資格を認められた場合に限り出願が認められます。希望する者は、本学ホームページを参照してください。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/individual>

【注意事項】

- (1) 出願に際しては、出願資格に関わらず指導を希望する教員との事前相談が必要です（「3. 指導を希望する教員との事前相談」参照）。
- (2) 学位授与が見込みでの出願者については、2025年4月入学時までに出願資格を得られなかった場合は、入学許可を取消し、入学金を除く納入済みの金額を返還いたします。

【社会人の方へ】

入学後も引き続き勤務を続ける方等に対し、教育上特別措置の必要があると認められた場合には夜間その他特定の時間または時期において、授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことがあります。また、標準修業年限を超えての計画的な履修（長期履修）を許可することがあります（61ページ「5. 長期履修」参照）。「3. 指導を希望する教員との事前相談」の際に十分にお打ち合わせください。

3. 指導を希望する教員との事前相談

出願を希望する方は、学外出身・学内出身（在学中も含む）を問わず、出願に先立ち必ず希望分野の指導教員と入学後の研究・教育について相談が必要です。67、68ページ「9. 指導教員一覧」を参照し、指導を希望する教員が決まりましたら、下記「(4) 申込方法」に記載のメールアドレスにメールにてお申込みください。

(1) 事前相談該当者

出願を希望する方は、学外出身・学内出身（在学中も含む）を問わず、全員事前相談を受けてください。

(2) 指導を希望する教員

67、68ページ「9. 指導教員一覧」を参照してください。

(3) 期間

出願までに必ず事前相談を受けてください。

(4) 申込方法

指導を希望する教員との事前相談は、必要事項を明記し、メールにて申し込んでください。

申込先 板橋キャンパス事務部教務課大学院係 医療データサイエンスプログラム担当

住 所：〒 173-8605 東京都板橋区加賀 2-11- 1

電 話：03-3964-7051

メール：gakui@teikyo-u.ac.jp

メールタイトル：「医療データサイエンスプログラム 事前相談希望」

①氏名（カナ） ②志望する分野 ③指導を希望する教員名

④連絡先（電話番号）

(5) 提出書類

特に必要ありません。ただし、状況に応じて提出を求められる場合もありますので、その場合は別途必要書類をご連絡いたします。

5. 長期履修

長期履修とは、社会人等に配慮し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することです。

1. 修業年限（カッコ内は在学年限）

博士後期課程：4年（6年）

2. 学費

標準修業年限の総額を長期履修許可年限で除した額を1年間の学費とします。別途、年数分の保険料が必要です。

3. 申請時期および履修期間の変更

長期履修を希望する方は、出願時に申請をしてください。入学後の申請はできません。

なお、長期履修期間の変更は1回限り、1年間の短縮が可能です。

4. 申請方法

「長期履修申請書」に必要事項を記入してください。「申請理由」欄には長期履修を希望する具体的な理由を明記してください。また、「指導を希望する教員との事前相談」の際に、十分お打ち合わせの上、指導予定教員の意見ならびに承認印を得てください。「長期履修申請書」は出願時に提出してください。

※ 詳細は出願先（77 ページ「5. 出願場所および試験場案内」参照）にお問い合わせください。

6. 入学試験

1. 入試日程

| 時期区分 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 入学手続締切日 |
|-------------|-------------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 第1回 (博士) | 出願開始日時 2024年10月15日(火)9:00 | 2024年 11月9日(土) | 2024年 11月22日(金) | 2024年 11月29日(金) |
| | 出願締切日時 2024年10月25日(金)16:30 | | | |
| 第2回 (博士) | 出願開始日時 2025年2月10日(月)9:00 | 2025年 3月8日(土) | 2025年 3月13日(木) | 2025年 3月19日(火) |
| | 出願締切日時 2025年2月21日(金)16:30 | | | |

2. 試験場

| 課程 | 試験場 | 注意事項 |
|--------|--|---|
| 博士後期課程 | 帝京大学板橋キャンパス大学棟本館 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 | 試験室は、当日試験場に掲示しますので、確認の上、9:05までに入室してください。ただし、8:45までは入室できません。 |

3. 選抜方法(時間割および試験の内容)

入学者の選抜は、筆記試験(小論文および外国語(英語))、口述試験、研究計画書等の総合判定とする。

| 時間 | 試験内容 |
|--------------|--|
| 8:45 ~ 9:05 | 試験室入室時刻 ※9:05までに入室のこと。ただし、8:45までは入室できません。 |
| 9:15 ~ 9:30 | 受験上の注意 |
| 9:30 ~ 11:00 | 筆記試験[小論文および外国語(英語)]※辞書持ち込み可 |
| 11:15 ~ | 口述試験 |

4. 受験上の注意

- ① 試験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は失格となります。
- ② 不正行為者には退室を命じ、失格とします。
- ③ 試験場および試験室において、他の受験生に迷惑となるような行為を禁止します。
- ④ 受験票は試験室の外に出る際には、必ず携帯してください。
- ⑤ 試験に必要なものは、かばん等に入れて椅子の下に置いてください。
- ⑥ 机の上に置けるものは受験票・鉛筆(和歌・格言等が印刷されているものは不可)・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り(電動式を除く)・英和辞書および医学用語に関する英和辞書(電子辞書除く)・時計(計時機能だけのもの)・眼鏡です。これ以外の所持品を置くことは認めません。アラームや時報機能のついた時計は、試験室に入る前に必ず設定を解除してください。
- ⑦ 筆記用具・英和辞書・腕時計等の貸借は一切禁止します。忘れずに持参してください。
- ⑧ 定規・コンパス・計算機等の補助具や電子辞書・携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末・ICレコーダー・イヤホン等の電子機器類は使用できません。試験時間中にこれらを使用(机の上に置く等)したり、身につけていることが発覚した場合、失格となります。

- ⑨ 携帯電話等の電子機器類は必ずアラームを解除し、電源を切ってかばん等に入れてください。これらを時計として使用することはできません。なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の電子機器類の着信音やマナーモードの振動音が発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で保管する場合があります。
- ⑩ 口述試験中および口述試験控室等での待機時間においても携帯電話等の電子機器類は使用できません。携帯電話等の電子機器類は、電源を切ってかばん等に入れてください。これらの使用が発覚した場合は、失格となることもあります。
- ⑪ ハンカチ・ティッシュペーパー・座布団・ひざ掛け・目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て、その指示に従ってください。
- ⑫ 「耳せん」は、監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。
- ⑬ 試験時間内の答案提出、退出は認めません。試験中の発病等やむを得ない場合は、手を挙げて監督者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも試験室以外での受験はできません。また、一時退室した場合の試験時間の延長は認めません。
- ⑭ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど、自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、時計や携帯電話等の電子機器類の短時間の鳴動、照明の点滅、周囲の建物のチャイム音・周囲の工事音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。
- ⑮ 口述試験の開始時刻は変更となることがありますので、当日の掲示または監督者の指示に従ってください。
- ⑯ 試験終了後、忘れ物がないか確認してから退室してください。
- ⑰ 受験票は可否の確認の際に必要となりますので、必ず持ち帰り、大切に保管してください。
- ⑱ 試験室はすべて禁煙です。

5. 遅刻の取扱い

試験開始後 30 分以内の遅刻に限り、受験を認めます。ただし、試験時間の延長は認めません。

試験当日、天候不良や事故・地震等により公共交通機関に乱れが生じている場合でも、試験場に向かってください（その日のうちに必ず入学試験が行われるものと理解してください）。

なお、主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の遅延が発生している、または、予想され、試験開始時刻に間に合わない場合は、77 ページ「5. 出願場所および試験場案内」に記載されている電話番号に連絡して指示を受けてください。

主要公共交通機関（バス・車の渋滞等は除く）の乱れにより、多数の受験生が試験開始時刻に間に合わないと本学が判断した場合のみ、試験開始時刻を遅らせることがあります。

6. 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に関する注意事項

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻疹、水ぼうそう、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し、治癒していない場合は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認められた場合は、この限りではありません。

なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日までの体調管理については、十分に注意してください。

7. 出願書類

【博士後期課程】

| | |
|------------------|--|
| ① 入学願書 | インターネット出願サイトで出願登録し、入学検定料を納入後、出力可能。 A4サイズの白紙へ印刷すること。 |
| ② 成績証明書 | 出身大学（学部・研究科）長等が作成したもの。 (2024年4月1日以降に発行されたもの) |
| ③ 卒業証明書 修了証明書 | 出身大学（研究科）長等が作成したもので学位の記載があるもの。 (2024年4月1日以降に発行されたもの) ※在学中の場合は、見込証明書を提出してください。見込みの者については、授与後速やかに提出すること。 |
| ④ 志望理由書※ | 所定の様式。 |
| ⑤ 修士論文 | (1) 出身大学院に提出した修士論文1部（コピー可）を提出すること。 (2) 出身大学院で修士論文の提出を求められなかった者、および修士の学位を有しない者は「⑧業績一覧表」を提出すること。 |
| ⑥ 研究計画書※ | 所定の様式。希望教育・研究領域等を記入すること。 |
| ⑦ 業績一覧表※ | 所定の様式。学会発表、学術論文、著書等がある場合、これまでの業績を記入し、業績を持たない場合は「なし」と記入すること。 |
| ⑧ 受験承諾書※ | 所定の様式（在職者であり、入学後も在職する予定である場合のみ）。 |
| ⑨ 長期履修申請書※ | 所定の様式（長期履修希望者のみ）。 |
| ⑩ その他 | 本学が必要と認めたもの。 |

※ 所定の様式は、帝京大学ホームページ (<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>) より各自ダウンロードし、作成してください。

【注意】

- ・①、④、⑥、⑦、⑧、⑨については、A4サイズの白紙に印刷してください。
- ・証明書と志願者の氏名の表記が異なる場合は、本人であることを証明する書類（戸籍抄本）を提出のこと。
- ・外国語で作成されている書類には、必ず公的機関等発行の日本語の翻訳を添付すること。

8. 授業科目

| 科目区分 | 授業科目名 (※オンライン授業) | 指導教員および担当教員 | |
|------|---------------------------|---|---|
| 基礎科目 | ※医療情報リテラシー | 教授 城戸 隆 | |
| | ※医療統計学 | 教授 宮田 敏 | |
| 専門科目 | ※疾患と診断および 予防データサイエンス特論 | 教授 小林 俊輔 教授 宮田 敏 | 教授 柴田 茂 准教授 小林 靖之 |
| | ※疾患と診断および 予防データサイエンス演習 | 教授 小林 俊輔 教授 宮田 敏 | 教授 柴田 茂 准教授 小林 靖之 |
| | ※画像と病態データサイエンス特論 | 教授 長瀬 洋之 教授 横山 直之 准教授 亀澤 秀美 | 教授 肥合 康弘 准教授 小島 慎也 講師 林 達也 |
| | ※画像と病態データサイエンス演習 | 教授 長瀬 洋之 教授 横山 直之 准教授 亀澤 秀美 | 教授 肥合 康弘 准教授 小島 慎也 講師 林 達也 |
| | ※認知と脳および 薬データサイエンス特論 | 教授 出口 芳春 教授 板垣 文雄 教授 城戸 隆 准教授 田畑 英嗣 | 教授 本間 光一 教授 岡ノ谷一夫 教授 草山 太一 准教授 濱 弘太郎 |
| | ※認知と脳および 薬データサイエンス演習 | 教授 出口 芳春 教授 板垣 文雄 教授 城戸 隆 准教授 田畑 英嗣 | 教授 本間 光一 教授 岡ノ谷一夫 教授 草山 太一 准教授 濱 弘太郎 |
| | ※患者支援データサイエンス特論 | 教授 渡邊 清高 教授 濱島 ちさと 教授 沖 雄二 准教授 信太 圭一 | 教授 小川 充洋 教授 新井 直子 准教授 池俣 吉人 |
| | ※患者支援データサイエンス演習 | 教授 渡邊 清高 教授 濱島 ちさと 教授 沖 雄二 准教授 信太 圭一 | 教授 小川 充洋 教授 新井 直子 准教授 池俣 吉人 |
| | ※医療イノベーション データサイエンス特論 | 教授 浅山 敬 教授 佐々木 茂 教授 宮田 賢宏 准教授 広田 雅和 | 教授 黄倉 崇 教授 古徳 純一 教授 福田 吉治 |
| | ※医療イノベーション データサイエンス演習 | 教授 浅山 敬 教授 佐々木 茂 教授 宮田 賢宏 准教授 広田 雅和 | 教授 黄倉 崇 教授 古徳 純一 教授 福田 吉治 |

| 科目区分 | 授業科目名 (※オンライン授業) | 指導教員および担当教員 | |
|------|---------------------|---|---|
| 研究科目 | データサイエンス特別研究 | 教授 小林 俊輔 教授 渡邊 清高 教授 柴田 茂 教授 本間 光一 教授 黄倉 崇 教授 棚本 哲史 教授 新井 直子 教授 肥合 康弘 教授 福田 吉治 教授 岡ノ谷 一夫 准教授 田畑 英嗣 准教授 小林 靖之 | 教授 朝比奈 雅志 教授 長瀬 洋之 教授 浅山 敬 教授 出口 芳春 教授 板垣 文雄 教授 佐々木 茂 教授 小川 充洋 教授 古徳 純一 教授 宮田 敏 教授 横山 直之 准教授 濱 弘太郎 准教授 池俣 吉人 |

9. 指導教員一覧

2024年7月1日現在

| 職名 | 氏名 | 研究内容 |
|----|-------|--|
| 教授 | 小林 俊輔 | 失語症患者の音声や運動障害患者の動作を記録し、人工知能で解析する研究指導を行う。 |
| 教授 | 長瀬 洋之 | 気管支喘息における胸部CT所見と炎症病態との関連について研究指導を行う。 |
| 教授 | 渡邊 清高 | 地域における患者ニーズ、医療ニーズを収集・分析し、医療や療養体制に応じた最適な情報提供と教育研修のモデル構築および多職種チームケアの実現に向けた課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 浅山 敬 | 既存あるいは新規の臨床疫学データセットを取扱い、臨床的疑問への回答となる新たな研究成果を発信するための研究指導を行う。 |
| 教授 | 柴田 茂 | 高血圧や慢性腎臓病患者の尿エクソソーム分画をサンプルとしてプロテオーム解析の研究指導を行う。 |
| 教授 | 出口 芳春 | ヒトiPS細胞技術を用いた脳微小環境の再構築と薬物の脳移行性についての実験的および数理解析的研究指導を行う。 |
| 教授 | 本間 光一 | 「記憶学習能力獲得の分子メカニズムの解明」を研究課題とし、動物実験とデータの統計解析を導入する研究手法により、データサイエンス、薬理学、生理学を統合した学際的理解を目指した研究指導を行う。 |
| 教授 | 板垣 文雄 | ケモインフォマティクス、機械学習あるいは統計学的手法を用いて、薬物動態、相互作用および副作用情報などに関する課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 黄倉 崇 | 医療ビッグデータ解析とモデリング&シミュレーションの手法を用いて、超高齢社会の医療課題解決のための研究指導を行う。 |
| 教授 | 佐々木 茂 | 計測データや画像データに対するデータ解析やAIの手法を用いて、遠隔医療等での活用を見据えた非侵襲診断の精度を向上するための解析・評価に関わる課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 棚本 哲史 | 半導体における様々なシミュレーション技術の手法を用いて、AIとの結合を考慮しながら、半導体ベース量子コンピュータシステム構築に関する課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 小川 充洋 | 主に医学または生理学・生化学に関連するデータの多変量ないしは非線形解析(機械学習的手法を含む)を用いたデータ解析や解析手法の開発に関する課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 新井 直子 | 高齢者医療・介護の諸問題を解決するための一方策として、実験的手法を用いて褥瘡・創傷を持つ患者を支援するための研究指導を行う。 |
| 教授 | 古徳 純一 | 高度な数学やコンピュータサイエンスの手法を用いて、現代医療を前進させる革新的な技術開発の研究指導を行う。 |
| 教授 | 肥合 康弘 | 撮像パラメータおよび画像処理の最適化による、MR画像の病変描出能の改善に関する課題の研究指導を行う。 |

| 職名 | 氏名 | 研究内容 |
|-----|-------|---|
| 教授 | 福田 吉治 | 保険者等が所有しているレセプト、健診等のデータを用いて、保健事業等の実施計画、評価、見直しに関する研究指導を行う。 |
| 教授 | 宮田 敏 | 大規模前向きコホート研究のデータを用い医療データ解析についての研究指導を行う。 |
| 教授 | 岡ノ谷一夫 | 動物行動研究・神経活動記録で得られたデータを対象に、分析プログラムを作成し実験群と対照群の差異について検討する。以上をまとめた博士論文を作成するための研究指導を行う。 |
| 教授 | 横山 直之 | 循環器に特有の画像から動脈硬化病変をとりあげ、血管病の一次予防を課題とした研究指導を行う。 |
| 准教授 | 田畑 英嗣 | 分子ドッキングや分子動力学 (MD) 計算を活用した創薬研究の指導を行う。 |
| 准教授 | 濱 弘太郎 | 質量分析器を用いたメタボロミクス等を用いて、疾患に特徴的な代謝物探索の研究指導を行う。 |
| 准教授 | 小林 靖之 | 工学的・汎用的に応用できる数理統計モデルのもつ問題点の理論的検討やその解決を課題として取り上げる。モデルの理論的検討を基に、数値シミュレーションと多様な分野における数値データに対する検証を通じて、既存モデルの問題点解決もしくは改良モデルを提案する研究指導を行う。 |
| 准教授 | 池俣 吉人 | ヒト歩行の力学原理に基づいた歩行支援機の課題の研究指導を行う。 |
| 教授 | 朝比奈雅志 | オミックスデータベースやバイオインフォマティクス的手法を用いて、植物の生産する二次代謝産物などの有用成分の探索と評価に関する課題の研究指導を行う。 |

6. 研究科共通

1. 出願手続

1. 出願方法

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
出願書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※出願書類…志望理由書、各種証明書、顔写真データなど
詳細は入学試験要項を参照してください

STEP 2 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/teikyo/>
または、
大学ホームページ ▶ <https://www.teikyo-u.ac.jp/>
からアクセス

STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

- ①初めて登録する方はマイページ登録 からログインしてください。
- ②メールアドレスの登録を行って仮登録メールを送信 をクリックしてください。
- ③ユーザー登録画面から ログインページへ をクリックしてください。
- ④登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた「初期パスワード」にて ログイン をクリックしてください。
- ⑥初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦表示された個人情報を入力して 次へ をクリックしてください。
- ⑧個人情報を確認して この内容で登録する をクリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続きを行う** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをクリックしてください。

STEP

4

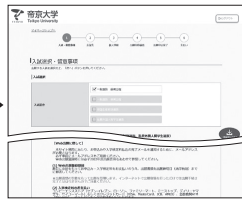


出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②入試区分選択と留意事項の
確認



③志望専攻・コースおよび
受験科目等の選択



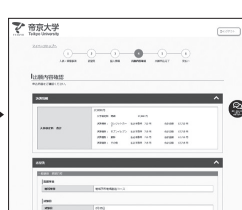
④指導教員、入学後予定身分等
の選択



⑤顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑥個人情報(氏名・住所等)の
入力



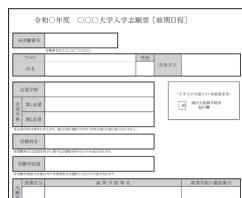
⑦出願内容の確認



⑧申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑨入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑩出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。

ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

| | |
|------------------|---------------|
| 払込票番号 メモ(13桁) | □□□□□□□□□□□□□ |
|------------------|---------------|

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

| | |
|----------------------|------------|
| オンライン決済 番号メモ(11桁) | □□□□□□□□□□ |
|----------------------|------------|

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

| | |
|------------------|------------|
| お客様番号 メモ(11桁) | □□□□□□□□□□ |
| 確認番号 メモ(6桁) | □□□□□□ |
| 収納機関番号 (5桁) | 5 8 0 2 1 |

※収納機関番号は、ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

STEP

5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi

LAWSON



マルチコピー機

あなたも、コンビニに、
FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

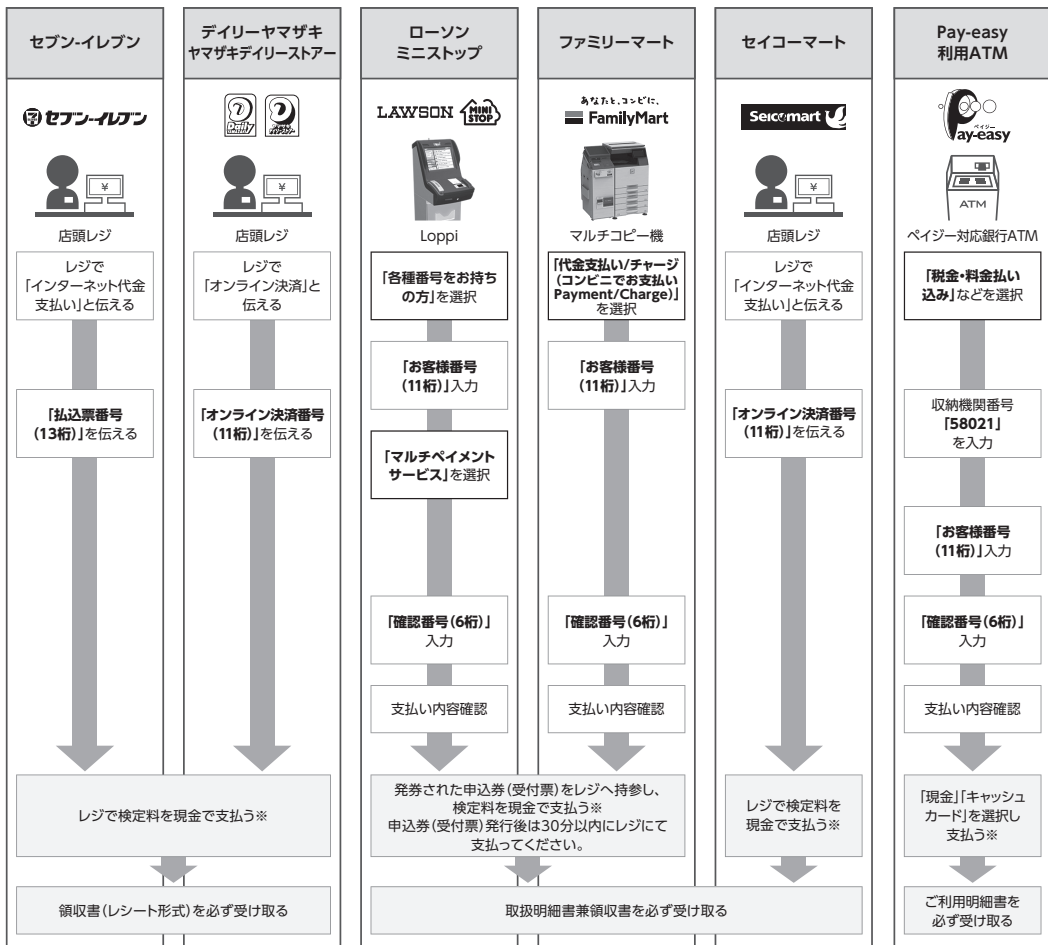
出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

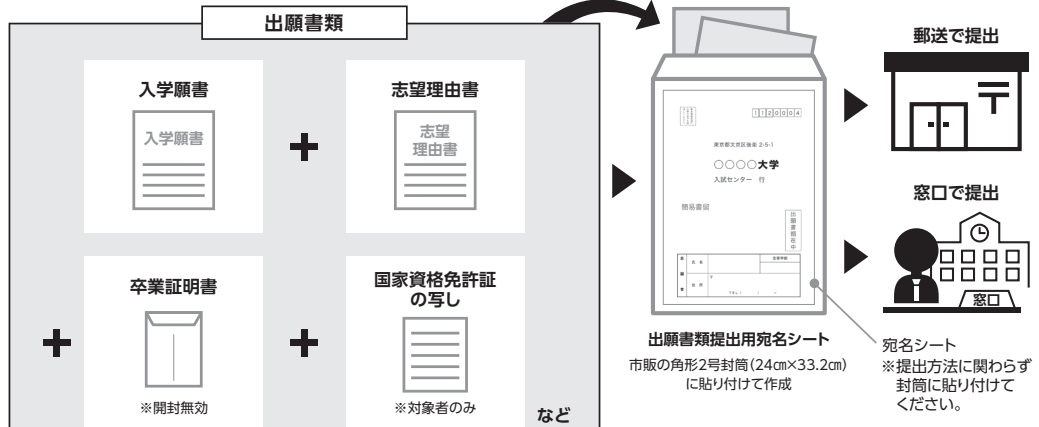
STEP

6

出願書類の印刷・提出

登録だけでは出願は完了していませんので注意してください。

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を印刷し、その他の出願書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から「簡易書留郵便」で郵送、または各キャンパスの担当窓口へ提出してください。※**出願締切日必着**。(締切日消印有効ではありません)



■出願書類

詳細は入学試験要項「出願書類」を確認してください。

提出先

研究科・専攻によって異なります。
入学試験要項で確認してください。

※提出した出願書類および入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

「入学願書」の印刷方法



- マイページに表示された「願書」のボタンをクリックしてください。
- お支払いが正常に完了すると「願書」のボタンがクリックできるようになり入学願書の出力ができます。

〈出願完了〉

出願時の
注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を提出して完了となります。
登録が完了しても出願締切日に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願登録および入学検定料の支払いは出願締切日の16時30分まで(営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります)、出願書類の提出は出願締切日必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

7

受験票の印刷

本学で出願書類を確認し、受験票のダウンロードが可能になりましたら、**試験前日までに**出願時に登録したアドレスメールで通知します。
必ずカラー印刷し、試験当日持参してください(※郵送はいたしません)。

【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に**片面(カラー)印刷**にしてください。



2. 入学検定料

35,000円（入学検定料の他に、一件につき1,320円の払込手数料がかかります。）
納入された入学検定料および払込手数料は、いかなる理由があっても返還しません。

3. 受験票

受験票は、各自で印刷し、当日会場へ持参してください。

4. 出願の注意事項

- ① インターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、角形2号の封筒に宛名シート※を貼付し、出願書類を封入した上で、郵便局窓口から「簡易書留郵便」で郵送または、各キャンパスの担当窓口を持参してください。なお、出願締切日必着です。
※宛名シートは「入学願書」の出力時に一緒に印刷できます。
- ② 出願書類に不備がある場合は、受理いたしません。
- ③ 提出された出願書類および入学検定料は、返還いたしません。
- ④ 出願後は、いかなる理由があっても書類の変更は認めません。
- ⑤ 入学決定後でも、提出書類の記載に事実と相違する内容が発見された場合には、入学許可を取り消すことがあります。
- ⑥ **出願者は、出願書類提出以前に、志望する指導教員の了解を得てください。**
- ⑦ 医学研究科社会人枠で出願し、2025年4月1日までに本学医学部（附属病院を含む）に勤務（医学部教員、後期研修医等）が決定しない場合には、一般枠への変更となります。

受験および修学上の特別配慮について

身体機能の障がいや疾病・疾患等により、受験および修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち（遅くとも出願締切日の2週間前まで）、77、78ページ「5. 出願場所および試験場案内」の各専攻・プログラムの出願先まで申し出てください。本学の対応が決定後、出願していただきます。要望に対応できない場合もありますので、予めご了承ください。また、不慮の事故等により、出願後に特別な配慮が必要となった場合も速やかに連絡してください。

合格通知の勧誘にご注意ください

入学試験前日や当日、本学関係者を装い、駅前および路上での合格通知の電話・メール配信等の強制的な勧誘や、印刷物を配布している場合もありますが、本学とは一切関係ありません。
したがって事故が生じた場合でも、本学は一切責任を負いませんので十分に注意してください。

2. 合格発表

Webによる合否照会システム

合格発表当日の11時から合格発表日6日後の22時に限り、Webによる合否結果の照会サービスを利用することができます。

なお、以下の利用可能期間以外は合否照会できません。

必ず利用可能期間内に合否照会 URL より合否を確認してください。

郵送による通知は行いません。



合否照会URL (Webアドレス)

<https://www.gouhi.com/teikyo/>



利用可能期間

合格発表日 11:00 ~ 合格発表日 6日後 22:00



注意点

- ①操作方法については画面の指示に従って操作してください。
- ②利用の際には「受験番号 (7桁)」、「誕生日 (4桁)」が必要となります。
- ③合否結果や受験番号、誕生日等に関する問い合わせには、一切応じられません。また、パソコンや携帯電話等の設定などについての問い合わせにも応じられません。
- ④確認忘れ等があっても、利用可能期間以外に合否照会はできません。
※システムの誤操作、入力ミス、確認ミス等を理由とした、入学手続締切日を過ぎてからの入学手続きは一切認めません。

3. 入学手続

1. 入学手続

- ① インターネット出願サイトのマイページへログインし、マイページメニューの「入学手続き申込一覧」インターネット出願サイトのマイページへログインし、マイページメニューの「入学手続き申込一覧」より振込依頼書をダウンロード・印刷してください。印刷した振込依頼書を使用し、志願者本人の名前にて国内の金融機関から納入金を振り込んでください。
ゆうちょ銀行から納入金を振り込む場合、現金による振り込みはできません。ゆうちょ銀行口座の「通帳と届出印」または「キャッシュカード」が必要です。詳細については、ゆうちょ銀行または郵便局にお問い合わせください。
※本人確認手続きに関する法令により、金融機関において10万円を超える現金による振り込みをされる場合には、本人確認書類（運転免許証、健康保険証等）の提示が必要となります。詳しくは振り込みを依頼する金融機関にお問い合わせください。
- ② 納入金は、合格発表日から入学手続締切日までに本学へ着金するように振り込んでください。（金融機関の取り扱いにより、送金が翌日扱いになる場合がありますので、ご注意ください。着金日等の詳細については各金融機関にお問い合わせください。）入学手続締切日までに振込手続（本学への着金）を完了しない場合は入学の意思がないものとみなし、入学許可を取り消します。なお、入学手続締切日の延期等は一切できません。
- ③ 納入金の手続き後に「新入生向けサイト」よりその他必要な提出書類を確認の上、期限内に提出してください。入学予定のキャンパスページへアクセスするためには、「パスワード」の入力が必要です。納入金の手続きを確認後、出願時に登録したメールアドレスに「パスワード」をお送りします。なお、メールが届くまでに1週間程度かかる場合があります。入学式の日程や大学からの重要書類を掲載しますので、必ず確認してください。入学案内書類の郵送は行いません。新入生向けサイト：https://teikyo.jp/new_student
*入学手続完了後でも、入学資格がないことが判明した場合には、入学許可を取り消します。その場合、納入金のうち入学金を除く金額を返還します。

2. 入学辞退

- ① 納入金の手続き完了後に、入学辞退を希望する方は、2025年3月31日(月) 16:00までにインターネット出願サイトのマイページへログインし、マイページメニューの「入学手続き申込一覧」の「辞退手続き」より入学辞退の手続きを行なってください。その場合には入学金を除く金額を返還します。
- ② 入学辞退の手続についての詳細は、新入生向けサイトに掲載の入学案内書類を参照してください。

3. 注意事項

- ・卒業（修了）見込者は卒業（修了）証明書を2025年3月31日(月)までに提出してください。
 - ・2025年4月に免許取得見込の出願者については、免許証が届き次第、写し（コピー）を提出してください。
 - ・薬剤師国家試験不合格の場合の扱いについて（薬学研究科のみ）
薬剤師免許取得見込者で、臨床薬学履修コースに入学を許可された者が、第110回薬剤師国家試験に不合格となった場合は、臨床薬学履修コースを履修することができません。
その場合は次のいずれかとします。
 - ①入学辞退（入学金以外は返還）扱い（2025年3月31日(月) 16:00まで）
 - ②薬学履修コースへの変更（受入指導教員がいる場合に限り。）
- ①の場合は辞退手続きを行なってください。
②の場合は下記の連絡先へ申し出てください。
ただし、申し出の期限は2025年3月31日(月) 16:00までとします。

【連絡先】 帝京大学板橋キャンパス事務部教務課 大学院係：03-3964-7051
【受付時間】 月曜～金曜 8:45～16:45 土曜 8:45～12:00
* 祝日・年末年始（12/29～1/3）除く

4. 納入金

2025年度の入学に必要な諸費用は以下のとおりです。納入金の振込期限は各研究科・専攻・プログラムの入学手続締切日です。

入学手続締切日の延期等は一切できません。

初年度

(単位：円)

| 研究科・プログラム | | 入学金 (入学時のみ) | 授業料 (半期分) | | 施設拡充費 (半期分) | | 学生傷害 保険費 (入学時のみ) ※2 | 入学手続時 納入金 | 後期納入金 (授業料、施設拡充費) ※3 | 初年度 納入金 | |
|---------------------|---------------|----------------|--------------|-----------|----------------|-----------|------------------------------|--------------|----------------------------|------------|-----------|
| 医学研究科 | 学外出身者 | 306,000 | 718,000 | (359,000) | 224,000 | (112,000) | 5,620 | 782,620 | 471,000 | 1,253,620 | |
| | 学内出身者※1 | 206,000 | 718,000 | (359,000) | 224,000 | (112,000) | 5,620 | 682,620 | 471,000 | 1,153,620 | |
| 薬学研究科 | 学外出身者 | 306,000 | 772,000 | (386,000) | 224,000 | (112,000) | 4,980 | 808,980 | 498,000 | 1,306,980 | |
| | 学内出身者※1 | 206,000 | 772,000 | (386,000) | 224,000 | (112,000) | 4,980 | 708,980 | 498,000 | 1,206,980 | |
| 医療技術学 研究科 | 博士前期・ 修士課程 | 学外出身者 | 306,000 | 654,000 | (327,000) | 224,000 | (112,000) | 2,920 | 747,920 | 439,000 | 1,186,920 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 654,000 | (327,000) | 224,000 | (112,000) | 2,920 | 647,920 | 439,000 | 1,086,920 |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 306,000 | 654,000 | (327,000) | 224,000 | (112,000) | 4,340 | 749,340 | 439,000 | 1,188,340 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 654,000 | (327,000) | 224,000 | (112,000) | 4,340 | 649,340 | 439,000 | 1,088,340 |
| 公衆衛生学 研究科 | 専門職 1年コース | 学外出身者 | 306,000 | 600,000 | — | 224,000 | — | 1,600 | 1,131,600 | — | 1,131,600 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 600,000 | — | 224,000 | — | 1,600 | 1,031,600 | — | 1,031,600 |
| | 専門職 2年コース | 学外出身者 | 306,000 | 600,000 | (300,000) | 224,000 | (112,000) | 2,920 | 720,920 | 412,000 | 1,132,920 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 600,000 | (300,000) | 224,000 | (112,000) | 2,920 | 620,920 | 412,000 | 1,032,920 |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 306,000 | 836,000 | (418,000) | 224,000 | (112,000) | 4,340 | 840,340 | 530,000 | 1,370,340 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 795,600 | (397,800) | 224,000 | (112,000) | 4,340 | 740,340 | 530,000 | 1,270,340 |
| 医療データサイエンス プログラム | 学外出身者 | 200,000 | 530,000 | (265,000) | 180,000 | (90,000) | 4,340 | 559,340 | 355,000 | 914,340 | |
| | 学内出身者※1 | 100,000 | 530,000 | (265,000) | 180,000 | (90,000) | 4,340 | 459,340 | 355,000 | 814,340 | |

初年度（長期履修生）※4

(単位：円)

| 研究科・プログラム | | 入学金 (入学時のみ) | 授業料 (半期分) | | 施設拡充費 (半期分) | | 学生傷害 保険費 (入学時のみ) ※2 | 入学手続時 納入金 | 後期納入金 (授業料、施設拡充費) ※3 | 初年度 納入金 | |
|---------------------|---------------|----------------|--------------|-----------|----------------|----------|------------------------------|--------------|----------------------------|------------|-----------|
| 医学研究科 | 学外出身者 | | | | | | | | | | |
| | 学内出身者※1 | | | | | | | | | | |
| 薬学研究科 | 学外出身者 | 306,000 | 624,000 | (312,000) | 184,000 | (92,000) | 6,130 | 716,130 | 404,000 | 1,120,130 | |
| | 学内出身者※1 | 206,000 | 624,000 | (312,000) | 184,000 | (92,000) | 6,130 | 616,130 | 404,000 | 1,020,130 | |
| 医療技術学 研究科 | 博士前期・ 修士課程 | 学外出身者 | 306,000 | 436,000 | (218,000) | 152,000 | (76,000) | 4,340 | 604,340 | 294,000 | 898,340 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 436,000 | (218,000) | 152,000 | (76,000) | 4,340 | 504,340 | 294,000 | 798,340 |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 306,000 | 492,000 | (246,000) | 168,000 | (84,000) | 5,620 | 641,620 | 330,000 | 971,620 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 492,000 | (246,000) | 168,000 | (84,000) | 5,620 | 541,620 | 330,000 | 871,620 |
| 公衆衛生学 研究科 | 専門職 1年コース | 学外出身者 | | | | | | | | | |
| | | 学内出身者※1 | | | | | | | | | |
| | 専門職 2年コース | 学外出身者 | 306,000 | 400,000 | (200,000) | 152,000 | (76,000) | 4,340 | 586,340 | 276,000 | 862,340 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 400,000 | (200,000) | 152,000 | (76,000) | 4,340 | 486,340 | 276,000 | 762,340 |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 306,000 | 630,000 | (315,000) | 168,000 | (84,000) | 5,620 | 710,620 | 399,000 | 1,109,620 |
| | | 学内出身者※1 | 206,000 | 630,000 | (315,000) | 168,000 | (84,000) | 5,620 | 610,620 | 399,000 | 1,009,620 |
| 医療データサイエンス プログラム | 学外出身者 | 200,000 | 397,500 | (198,750) | 135,000 | (67,500) | 5,620 | 471,870 | 266,250 | 738,120 | |
| | 学内出身者※1 | 100,000 | 397,500 | (198,750) | 135,000 | (67,500) | 5,620 | 371,870 | 266,250 | 638,120 | |

<参考>長期履修生（2年目以降）（授業料+施設拡充費）

(単位：円)

| 研究科・プログラム | | 2年目（半期分） | | 3年目（半期分） | | 4年目（半期分） | | 5年目（半期分） | |
|---------------------|---------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 薬学研究科 | 学外出身者 | 794,000 | (397,000) | 794,000 | (397,000) | 794,000 | (397,000) | 794,000 | (397,000) |
| | 学内出身者※1 | | | | | | | | |
| 医療技術学 研究科 | 博士前期・ 修士課程 | 学外出身者 | 584,000 | (292,000) | 584,000 | (292,000) | | | |
| | | 学内出身者※1 | | | | | | | |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 658,000 | (329,000) | 658,000 | (329,000) | 658,000 | (329,000) | |
| | | 学内出身者※1 | | | | | | | |
| 公衆衛生学 研究科 | 専門職 2年コース | 学外出身者 | 548,000 | (274,000) | 548,000 | (274,000) | | | |
| | | 学内出身者※1 | | | | | | | |
| | 博士後期 課程 | 学外出身者 | 794,000 | (397,000) | 794,000 | (397,000) | 794,000 | (397,000) | |
| | | 学内出身者※1 | | | | | | | |
| 医療データサイエンス プログラム | 学外出身者 | 532,500 | (266,250) | 532,500 | (266,250) | 532,500 | (266,250) | | |
| | 学内出身者※1 | | | | | | | | |

※1 学内出身者：<医学研究科>

帝京大学医学部卒業生

<薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科、医療データサイエンスプログラム>

本学卒業生および帝京大学グループ校卒業生（帝京平成大学、帝京科学大学、帝京短期大学、帝京学園短期大学、帝京平成看護短期大学、帝京高等看護学院、帝京福祉専門学校、帝京山梨看護専門学校、帝京マレーシア日本語学院、ユニタス日本語学校、帝京平成大学附属日本語学校、千駄ヶ谷日本語教育研究所）

※薬学研究科の社会人入試区分での入学者の納入金は学内出身者と同等となります。

※2 学生傷害保険費：学生教育研究災害傷害保険、付帯賠償責任保険、こども総合保険 なお、保険料は変更になることがあります。

※3 後期分の納入方法は、入学後に本学より通知します。後期分の納入期限は、2025年10月末日です。

※4 長期履修生：標準修業年限の総額を長期履修許可年限で除した額を1年間の学費とします。

※2024年度より大学院修士段階（博士前期課程）における「授業料後払い制度」が創設されました。この制度を希望する場合は、下記のURLにアクセスし、申請書および案内を確認してください。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/applicants/download>

5. 出願場所および試験場案内

インターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、角形2号の封筒に宛名シート※を貼付し、出願書類を封入した上で、郵便局窓口から「簡易書留郵便」で郵送または、各キャンパスの受付窓口（以下の表を参照）に持参してください。なお、出願締切日必着です。

※宛名シートは「入学願書」の出力時に一緒に印刷できます。

| 研究科 | 専攻・プログラム | 出願受付キャンパス |
|----------|-----------------|-----------|
| 医学研究科 | 医学専攻 | 板橋キャンパス |
| 薬学研究科 | 薬学専攻 | 板橋キャンパス |
| 医療技術学研究所 | 視能矯正学専攻 | 板橋キャンパス |
| | 看護学専攻 | |
| | 診療放射線学専攻 | |
| | 臨床検査学専攻 | |
| | 救急救護学専攻 | |
| | スポーツ健康科学専攻 | 八王子キャンパス |
| | 柔道整復学専攻 | 宇都宮キャンパス |
| 公衆衛生学研究所 | 公衆衛生学専攻 | 板橋キャンパス |
| 学位プログラム | 医療データサイエンスプログラム | 板橋キャンパス |

板橋キャンパス

【出願場所】 帝京大学板橋キャンパス事務部教務課大学院係（大学棟本館2階）

【住所】 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

【電話】 03-3964-7051（直通）

【FAX】 03-3964-8396

【メール】 gakui@teikyo-u.ac.jp

【受付時間】 平日／8：45～16：45 土曜日／8：45～12：00

※祝日、年末年始（12/29～1/3）および大学（学部）入学試験日は除く。

※大学行事等で入校が制限される場合もあるため、窓口を持参するときは事前に電話で確認してください。

【試験場】 帝京大学板橋試験場（帝京大学板橋キャンパス大学棟本館）



- JR 埼京線
「十条駅」北口より徒歩 10 分
- 地下鉄都営三田線
「板橋本町駅」A1 出口より徒歩 13 分
- 国際興業バス
王子駅 ↔ 板橋駅
「帝京大学病院前」下車
赤羽駅西口 ↔ 王子駅
「上十条四丁目」下車徒歩 3 分
赤羽駅東口 ↔ 高円寺駅
「姥ヶ橋」下車徒歩 5 分
王子駅 ↔ 上板橋駅
「姥ヶ橋」下車徒歩 5 分
- 都営バス
王子駅 ↔ 新宿駅西口
「姥ヶ橋」下車徒歩 5 分

※公共の交通機関をご利用ください。

八王子キャンパス

【出願場所】 帝京大学八王子キャンパス本部入試室 入試企画室

【住 所】 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359 番地

【電 話】 042-678-3317

【メー ル】 t-nyushi@main.teikyo-u.ac.jp

【受付時間】 平日／8：30～16：45 土曜日／8：30～12：00
※祝日、年末年始(12/29～1/3) および1/18を除く

【試 験 場】 帝京大学八王子試験場 (帝京大学八王子キャンパス)

◎京王線 聖蹟桜ヶ丘駅

○京王バス2番のりば「帝京大学構内」行きに乗車
(直行15分、各停17分)、終点「帝京大学構内」下車

◎京王線 高幡不動駅

○京王バス5番のりば「帝京大学構内」行きに乗車
(直行11分、各停13分)、終点「帝京大学構内」下車

◎京王相模原線 京王多摩センター駅

◎小田急多摩線 小田急多摩センター駅

◎多摩モノレール 多摩センター駅

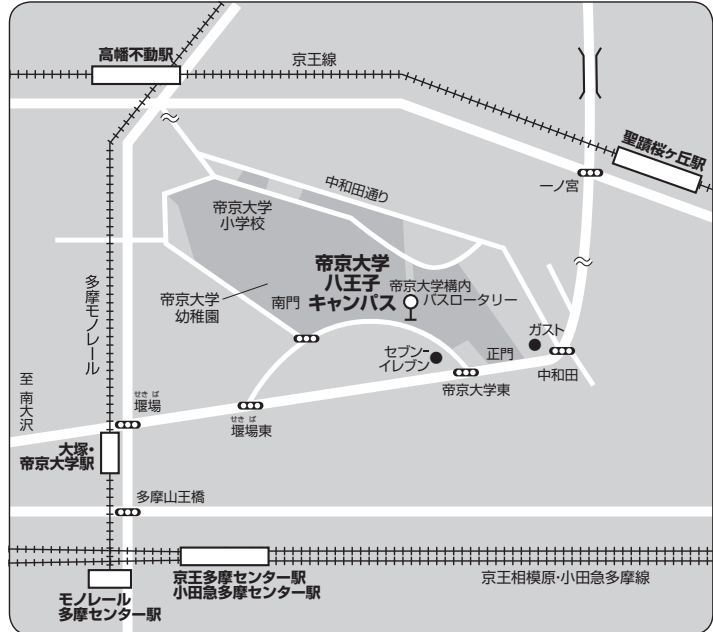
○京王バス4番のりば「帝京大学構内」行きに乗車
(直行14分、各停18分)、終点「帝京大学構内」下車

◎多摩モノレール 大塚・帝京大学駅

○徒歩約15分

注意事項

駐車場はありませんので、公共の交通機関を利用して
ください。



宇都宮キャンパス

【出願場所】 帝京大学宇都宮キャンパス大学院入試担当学生サポートチーム

【住 所】 〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

【電 話】 028-627-7123

【メー ル】 gakusei@riko.teikyo-u.ac.jp

【受付時間】 平日／9：00～16：30 土曜日／9：00～12：00

※日曜、祝日、年末年始(12/29～1/3) および大学(学部)入学試験日は除く。

【試 験 場】 帝京大学宇都宮試験場 (帝京大学宇都宮キャンパス)

〈所在地〉

栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

TEL 028-627-7123

◎JR 東北新幹線・宇都宮線

宇都宮駅西口下車

○関東バス5番のりばから豊郷台
・帝京大学行、ニュー富士見行、
宇都宮美術館行に乗車し20分、
「帝京大学」下車

